

三重大学

男女共同参画推進専門委員会

Advisory Committee for the Promotion of Gender Equality Report 2019

MIE UNIVERSITY



報告書2019



目 次

はじめに	1
I 特集	
1. 「トモシヨク宣言・ワークショップ」及び「働き方改革に係る講演会」	2
2. 2019年度「男女共同参画推進フォーラム」	8
II 男女共同参画推進専門委員会の活動	13
III 男女共同参画推進学生委員会の活動	
第5回三重大学生の男女共同参画に関する意識調査	14
IV 教養教育授業	
「男女共同参画基礎」	23
V 部局の取組み	
1. 教育学部男女共同参画推進委員会	28
2. 工学部男女共同参画推進委員会	28
3. 生物資源学部男女共同参画室	29
VI 地域との連携	
1. 三重県との連携	30
2. 津市との連携	31
VII 国立大学協会の取組み	
三重大学の男女共同参画進捗状況調査結果	32
VIII 資料集	
1. 三重大学男女共同参画推進組織	40
2. 三重大学男女共同参画推進委員会規程	41
3. 三重大学男女共同参画推進専門委員会細則	41
4. 三重大学男女共同参画推進学生委員会内規	43
5. 三重大学男女共同参画推進室内規	44
6. 2019（令和元）年度三重大学男女共同参画関係委員会等名簿	44

はじめに

三重大学は、2008（平成20）年7月の三重大学男女共同参画宣言において、次の5つの基本方針を設定しました。

1. 男女共同参画の視点に立った教育・研究組織の確立をめざす。
2. 男女共同参画の視点から制度や慣行を見直し改善する。
3. 仕事と個人生活とのバランスに配慮し、男女共同参画の観点から必要な支援を行う。
4. 学生・教職員に対して、男女共同参画に関する啓発活動を行う。
5. 男女共同参画を推進する地域の組織や自治体との協調・連携を推進する。

この基本方針に従って、三重大学男女共同参画推進委員会、専門委員会及び学生委員会が、さまざまな活動を行っています。

2019（令和元）年度は、一昨年7月に策定した男女共同参画推進実施計画に沿って活動を実施しました。一昨年から試行していた研究補助者雇用経費支援制度を今年度から本格実施としました。4月から7月まで、教養教育において「男女共同参画基礎」を開講し、男女共同参画推進専門委員会委員及び地方公共団体等からの非常勤講師・ゲストスピーカーによる授業を実施しました。今年度新たに9月に、学長がパパ料理研究家の滝村雅晴氏立会いのもと、全国高等教育機関で最初となる「トモショク宣言」を行い、終了後、ワークショップとして教職員とそのお子様も交えて和食献立に挑戦しました。11月には、滝村氏による「トモショク（共食）のススメ」と題して働き方改革に係る講演会を開催しました。

また、男女共同参画推進学生委員会は、6月に第5回目となる学生の男女共同参画意識調査を実施する等の活動を行いました。

国立大学法人三重大学の第3期中期目標には、教職員人事に関して、つぎのような数値目標が掲げられています。

- 男女共同参画をさらに強化するため、優秀な女性を積極的に登用することにより、女性教員比率18%以上、事務系職員の指導的地位に占める女性比率20%以上を達成する。
- 三重県知事表彰「男女がいきいきと働いている企業 グッドプラクティス賞」を受賞した実績を基に、本学及び三重地域の男女共同参画をさらに推進するため、三重県との連携を強化する。

これらの目標を達成することが国立大学法人三重大学の公約です。

学内外のさまざまな知恵を集めて、男女共同参画事業を展開していきますので、皆様のご協力をお願いいたします。

2020（令和2）年3月

三重大学理事・副学長（総務・財務・基金・企画・評価担当）尾西 康充

1. 「トモシヨク宣言・ワークショップ」及び「働き方改革に係る講演会」

9月18日（水）、「トモシヨク宣言」及び「トモシヨクワークショップ」を行いました。「トモシヨク」とは、“共（トモ）に食（シヨク）事をする”です。一人ではなく、家族や友人（トモ）など誰かと共に食事をするを指す「共食（きょうしょく）」という意味を込めながらも、改めて今の時代に合ったあり方やイメージを作り、推進するために親しみを込めて名付けられました。今回、三重大大学は、NPO法人ファザーリング・ジャパンが推進するトモシヨクProject（働きながら、家族や友人とトモに食事ができる世の中を創るプロジェクト）の主旨に賛同し応援する「トモシヨク宣言」を、高等教育機関では日本で最初に行いました。

「トモシヨク宣言」に先立って行われたトモシヨクProjectのプロジェクトリーダーであり、㈱ビストロパパ代表取締役 滝村 雅晴氏による講演では、料理を作ることや「トモシヨク」の意義などが語られました。



滝村氏による講演

その後、駒田 美弘学長から宣言文が読み上げられ、「トモシヨク宣言」が行われました。



左から滝村氏、尾西 康充理事(総務・財務・基金・企画・評価担当)副学長、駒田学長

宣言後、教育学部校舎の調理実習室にて、“パパ料理研究家”の滝村氏が講師を務める「トモショックワークショップ」が行われ、駒田学長をはじめとする26名の教職員とご家族が参加しました。滝村氏によるデモンストレーションの後、参加者がグループに分かれて調理を行いました。



滝村氏によるデモンストレーション

普段ほとんど料理をしないという参加者も少なくない中、教育学部家政教育の学生・教員のサポートのもと各グループの中で協力し合い、肉豆腐・土鍋で炊くご飯/塩ごま油おにぎり・ほうれん草のお浸し・みそ汁と、デザートに本学の農場で実った梨を加えた計5品が完成しました。



みんなで調理中

協力して作った手料理を「トモショック」し、各グループから感想を発表していくと、「普段料理をしないので不安だったが、実際に作ることができてうれしい」「家族や友人と食事をする機会を増やしていきたい」「新しい料理にチャレンジしたい」などの前向きな声があがりました。そして最後は全員で後片付けを行い、ワークショップは終了しました。



一人前の料理

トモシヨクワークショップ（調理実習）参加者アンケート集計結果

問 1. ワークショップに参加された動機は何ですか。当てはまる番号全てをご記入ください。

回答 ①興味があった（40.9%）②具体的目的があって（13.6%）③本学教職員からの紹介（31.8%）④友人・知人の誘い（4.6%）⑤その他（9%）

問 2. ワークショップ全体の感想をお聞かせください。

回答 ①非常に良かった（70%）②良かった（25%）③普通 0 ④やや不満（5%）
⑤期待はずれ 0

問 3. 講師のデモンストレーションの内容は理解できましたか。

回答 ①大変理解できた（75%）②まあまあ理解できた（25%）③あまり理解できなかった 0 ④理解できなかった 0

問 4. 実際に調理をした感想をお聞かせください。

回答 ①非常に簡単だった（15%）②意外に簡単だった（70%）③意外に難しかった（15%） ④非常に難しかった 0

問 5. 今後、ご自身で「トモシヨク」を実践・推奨していこうと思いますか。

回答 ①思う（95%）②少し思う（5%）③あまり思わない 0 ④思わない 0

問 6. 今後もこのようなワークショップがあればよいと思いますか。

回答 ①思う（80%）②少し思う（15%）③あまり思わない 0 ④思わない（5%）

問 7. （前の問 6 で①又は②と回答された方に）また参加したいと思いますか。

回答 ①思う（57.9%）②少し思う（26.3%）③あまり思わない 0 ④思わない 0
⑤わからない（15.8%）

問 8. ワークショップに参加して良かったこと又は得られたことについてお聞かせください。（記述式）

回答 ・自宅で早速実践し、女房からまずまずの講評をもらいました。
・料理の知識が増えたこと ・実行のきっかけとなった。
・久しぶりに料理をし、家族・友人と時間を共有することの大切さに気付いた。レシピは簡単に調べられるので。今後も続けていこうと思った。
・複数人で一緒に調理することの難しさに気付くことが出来た。包丁の持ち方や切り方など、基本を聞くことが出来たのが良かった。
・さまざまな料理のレシピは、検索して探すことが出来るが、実際に料理を作るのは気軽ではありません。少なくとも今回作らせていただいた料理については、気軽に作れるということを実感できました。
・家族と食事出来る機会は有限であるという話がありましたが、その通りだと思いますので、今後は大切にしていきたいと思います。
・自身のワークライフバランスについて、再度見つめ直すいい機会となった。
・機会ときっかけがあれば、男女や年齢を問わず料理に取り組めることが分かり、大変勉強になりました。また、滝村様の誰にでも作りやすいレシピもと

でも参考になりました。

- ・料理に関しての基礎知識を身につけることができました。料理のレパトリーが増えました。普段あまり喋らない人とも話すことができました。
- ・このワークショップを通して、日常業務で接することの少ない教職員との間で料理を作るという一つの目的に向けた共同作業ができた点が有意義であった。
- ・料理に対してのマイナスの先入観を少し払拭できたと思う。
- ・家族との食事、会話の時間を大切にすることを再認識したこと。家族との時間の過ごし方の一つの手段として、今回のワークショップは参考になりました。
- ・子どもと参加したのですが、子どもが本当に楽しそうに料理をしていたので、参加して良かったと思います。今後子どもと料理をする機会を増やして行き、いずれは自分で料理ができるようになってほしいと思いました。
- ・料理と人生について深く考える機会をいただき大きく価値観が変わりました。滝村先生のご長女様のお話は一生忘れません。また、同じ班の皆様と初対面にも関わらず最高のチームワークを発動できたように感じます。トモに作りトモショックする醍醐味を味わうことができました。
- ・料理の上手・下手はさておいて、コミュニケーションが良好になると思います。ギスギスした雰囲気の悪い職場ほどやった方がいいと思います。
- ・事前の講演を聴講してからのワークショップであったため。より理解を深めることができました。ワークショップで実践したメニューを家族に作ってみたいと思います。
- ・料理をする機会がほとんどなく、班の他の方に迷惑をかけないか、料理を完成させられるかが不安であったが、実際に料理を完成させたという経験を得ることができて良かったと感じる。
- ・料理のレパトリーが増えた。
- ・普段の業務で関わらない教職員の方と関われた。

問 9. 運営面も含め、何か改善すべき点等お気づきのことがあればお聞かせください。(記述式)

- 回答
- ・まったくの素人にとっては、もう少し時間が欲しかった。
 - ・妻子との参加も検討したが、子供が小さい(2歳と0歳)こともあり、時間帯や環境的にも今回のやり方では難しいと感じた。家族の氏名や年齢など、詳細な個人情報が記載された名簿を回覧することはやめた方がよい。
 - ・案内なども含め、ご丁寧にいただきありがとうございました。
 - ・デモンストレーション時間を短くし、調理時間を長く取って貰いたかった。普段料理をしていない人には短い時間だと感じた。
 - ・作り置きできるメニューを複数学ぶことが出来たら(またはメニュー検索の方法や関連アプリの紹介など?)、有意義かもしれません。共働きの家庭が増えて、たとえば平日に料理する時間が取れない家庭が増えているのではないかと予想します。食事を週末に作り置きできれば、平日も家庭と一緒に夕食を食べるチャンスが増えるかもしれません。
 - ・学生さんの補助もあり、時間内にスムーズに進められたと思いますが、もう少し時間をかけて一品ずつ調理できる時間があっても良かったのではないかと思います。
 - ・ワークショップではないですが、講演会は広く教職員に聴いていただける素

晴らしい内容だったため、教育研究評議会の後ではなく、別日に広めの講義室にて単独で設定するといっていました。講演を聞いた後の方が、ワークショップへの理解が進むかと思います。

- ・調理作業に入る前に、各班でアイスブレイクがあると、もっとスムーズに協力できたのではないかと思います。作業に使うボウル若しくはトレーがもう少しあると、作業がしやすかったように思います。(切ったものを置いておくところが無かった。)作業工程が、チャートになっていると、今、何の作業をすればよいのか、わかりやすかったように思います。男性や料理が苦手と感じている人が、自分の手で料理を作りみんなで笑顔で食べられる、とても素晴らしいワークショップでした。もし、次回もあれば是非参加させていただきたいです。企画・準備などありがとうございました。
- ・個人的な希望ではありますが、もう少し早く始めて早く終わってもらえるとありがたいと思いました。
- ・貴重な経験ができました。運営していただいた皆様、ありがとうございました。
- ・企画としてはとても良かったと思います。普段料理をされない50代、60代の男性の先生方にももう少し参加してもらえると良かったと思います。
- ・学生と一緒にできれば、なおよかった。
- ・大変お世話になりました。様々ご準備くださり、感謝しております。おかげ様で、実習を非常にスムーズで有意義な時間となりました。
- ・教育学部の先生や学生にサポートしていただき、大変スムーズにワークショップを終えることができ感謝しています。



最後に参加者各自のトモシヨク宣言書を持って全員で記念撮影

2. 働き方改革に係る講演会

11月5日（火）、三重大学地域イノベーションホールにて、パパ料理研究家で㈱ビストロパパ代表取締役の滝村 雅晴氏を講師に招き、三重大学働き方改革講演会「トモショク（共食）のススメ～働く人が、働きながらトモに食事ができる世の中を～」が開催され、本学教職員、学生及び他機関からの方、合せて88名が参加しました。「トモショク」とは、“共（トモ）に食（ショク）事をする”ことです。一人ではなく、家族や友人（トモ）など、食育で言うところの誰かと共に食事することを指す「共食（きょうしょく）」という意味を込めながらも、改めて今の時代に合ったあり方やイメージを作り、推進するために親しみを込めて名付けられています。三重大学では9月18日には滝村氏を招き「トモショク宣言」「トモショクワークショップ」を行いました。はじめに駒田 美弘学長から挨拶があり、トモショクの実践について「ぜひ滝村先生のお話を聞いて、今日の夕方からでも実行に移していただきたい」と述べられました。



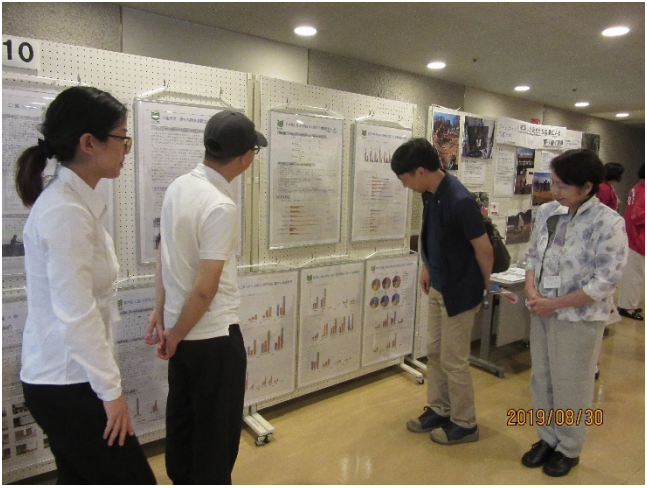
本講演は働き方改革としての「長時間労働の削減」に焦点を当てたものです。家族や友人などとトモに食事をする機会が勤務後にある暮らしのため、働き方を変えること、生き方を改革することをテーマとし、滝村氏は料理を美味しく作るコツや自身の料理についての失敗談などを交えながら、男性が料理をすることのメリットや、誰かと共に食事ができる大切な時間のために働き方を変えることについてお話しされました。また、日本における家事育児の働き方事情、共食をすることによる多くの効果等を具体的な資料を示して説明していただき、参加者は真剣に聞き入りました。最後に、三重大学男女共同参画推進専門委員会委員長の尾西 康充理事（総務・財務・基金・企画・評価担当）副学長から挨拶があり、「男性も女性も、ぜひ料理に取り組み、美味しい料理を食べるようにいたしましょう」と参加者に呼びかけられました。

2019年度男女共同参画推進フォーラム参加報告

2019年8月29日～31日に（独）国立女性教育会館(NWEC)において、2019年度男女共同参画推進フォーラム「つなぐ、あらたな明日へ～女性も男性も共に暮らしやすい社会を創る」が開催され、朴 恵淑（人文学部・地域イノベーション学研究科教授）と男女共同参画推進学生委員会の委員3名が参加し、三重大大学の男女共同参画推進活動及び教養教育「男女共同参画基礎」の講義内容、男女共同参画推進委員会の活動「三重大学生及び日中韓の大学生の男女共同参画意識調査結果」について展示会・発表を行いました。

（独）国立女性教育会館(NWEC)では、大学、行政、NPOの活動展示会の他に、日本の憲法に女性の権利の記述を行った、ベアテ・シロタ・ゴードンさんの特別展示会、国連女性の地位委員会（CSW）に日本の若手の代表として参加した学生の発表会（ユースが見て来た世界とユースから見える社会）、東日本大震災の被害から復興を図っている東北地域での救援活動の分科会などが行われ、多くのイベントにも参加し、参加者との交流を深めました。特に、2019年3月11日～22日まで国連本部（ニューヨーク）で開催された、第63回国連女性の地域委員会(CSW)のテーマ「ジェンダー平等及び女性と女兒のエンパワーメントのための社会保護システム、公共サービス及び持続可能なインフラへのアクセス」に、日本の若者の代表として参加した3名の女子学生による報告会に参加しました。参加学生と三重大大学男女共同参画推進委員会からの参加者との交流を深めることができ、グローバル視点を取り入れた、グローカル活動の重要性に気づく貴重な機会となりました。

パネル展示会は、大学、行政、NPOなど、10団体が参加しましたが、三重大大学の男女共同参画の取組及び講義、三重大学生及び日中韓の大学生の男女共同参画意識調査結果に、参加者から多くの質問や提案が寄せられ、今後の発展的展開に大きなヒントが得られました。（三重大学生及び日中韓の大学生の男女共同参画意識調査結果参照）



展示パネル

三重大 男女共同参画推進活動

「みえの働き方改革推進企業」制度に登録

2018(平成30)年10月1日付で、本学は平成30年度「みえの働き方改革推進企業」制度に登録されました。この登録制度は三重県による、働きがいを育み、職場環境づくりを目的に、ワーク・ライフ・バランスの推進や働き方の見直し、女性活躍支援、女性の能力活用などに取組んでいる企業等を募集し、優れた取組を県内に広めることにより、地域社会全体での「働き方改革」の取組推進を図るためのものです。これまでの「みえの働き方改革推進企業」は、地域社会全体での「働き方改革」の取組推進を図るためのものです。今回の登録は、本学が男女共同参画推進企業としての登録資格を備えていることから登録されたものです。

「みえの働き方改革推進企業」登録制度推進事務局(登録実行) 事務局は、次の資料に取り組んでいる企業を「みえの働き方改革推進企業」として登録するものとす。

(一) 既に掲げられている項目について無視的な取組を行っていること。

ワーク・ライフ・バランスを推進するための取組。

ア 所定外労働の削減のための工夫。

イ 年次有給休暇の取組的な取得促進のための工夫。

エ 就業員の意見や要望、働き方改革に関するアイデアの聴取や実証検証。

オ 「女性」「高齢者」「障がい者」「若年者」「特定正社員」等、誰もが働きやすい職場環境づくり。

カ 産前・産後休業期間(14週)や、介護休業期間(180日)、看護休暇の日数等の基準を上回っている。

キ 専任・兼任の育児支援制度を推進している。

ク 若年者等の就業支援活動に取り組んでいる。

ク 日社の能力を積極的に確保し、県外からの人材確保に努めている。

今後は本学は働きがいを育み、職場環境づくりを積極的に取り組んでいきます。

三重大表彰「ベストプラクティス賞」受賞

2018年10月の「みえの働き方改革推進企業」制度の登録に続き、10月18日には三重大表彰「ベストプラクティス賞」を受賞しました。2018年度に登録された県内44企業のうち、特に優れた取り組みを推進している4企業が表彰を受け、三重大は取り組みが特に顕著となるベストプラクティス賞を受賞しました。

鈴木知事より表彰を受ける駒田学長

三重大 男女共同参画推進活動

イクボス宣言及び講演会開催

三重大では、学長及び学務部長に続き、理事、副学長及び学部長、研究科長が「イクボス」宣言を行い、ワーク・ライフ・バランスに配慮し、さらに、働きやすい職場環境や学習環境を創出していきます。「イクボス」とは、働きがいに配慮し、スタッフのワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の両立)を考えた、その人のキャリアと人生を応援しながら、組織の業績も結果を出しつつ、自らの仕事と私生活を両立させることができる上司(経営者・管理者)のことを指します。(NPO法人ファザーリング・ジャパン「イクボス・プロジェクト」より)

新副学長・研究科長等及び事務系部長によるイクボス宣言

2018年11月2日(水)事務局総務課会議室において、新副学長・研究科長及び事務系部長によるイクボス宣言並びに講演会を開催しました。

2018年3月1日、駒田学長が鈴木三重大知事会会長のともに「イクボス宣言」を行い、続いて、同年10月1日に新副学長及び研究科長が伊勢市伊勢市役所市長の立会いのもとに「イクボス宣言」を行いました。2017年は、理事、副学長及び学部長、研究科長が伊勢市伊勢市役所市長の立会いのもとに「イクボス宣言」を行いました。2018年は、引き続き市役所市長の立会いのもとに新副学長、研究科長及び事務系部長が「イクボス宣言」を行いました。一人ひとりがワーク・ライフ・バランスに配慮し、教職員、学生そして自らもいざというときも安心して利用できる教育・研究環境をつくるため、それぞれの言葉でイクボス宣言を行いました。

労働教育「男女共同参画基礎」授業の受講

2019(令和元)年度前期、後期教育(2学期)において現代社会情報特設講座「男女共同参画基礎」を開催しました。この授業は、三重大男女共同参画推進委員会委員が講師となり、地方公共団体等から非常勤講師やゲストスピーカーを迎えて、オムニバス形式で実施しています。今年度の授業には、63名の学生が受講継続し、国、三重県、三重大の各部署における男女共同参画推進の取組を学ぶ機会に、13歳及び14歳以下対象等についても幅広く学びました。

また、第10回の授業の冒頭では、本学男女共同参画推進学生委員会委員長の高田さん及び副委員長の高田さん、学生委員会の紹介等を行い、6月には受講生を対象に第10回の男女共同参画推進講座を実施しました。

第1回 学長 総務部長
第2回 学長 学務部長
第3回 学長 学務部長
第4回 学長 学務部長
第5回 学長 学務部長
第6回 学長 学務部長
第7回 学長 学務部長
第8回 学長 学務部長
第9回 学長 学務部長
第10回 学長 学務部長
第11回 学長 学務部長
第12回 学長 学務部長
第13回 学長 学務部長
第14回 学長 学務部長
第15回 学長 学務部長
第16回 学長 学務部長
第17回 学長 学務部長
第18回 学長 学務部長
第19回 学長 学務部長
第20回 学長 学務部長
第21回 学長 学務部長
第22回 学長 学務部長
第23回 学長 学務部長
第24回 学長 学務部長
第25回 学長 学務部長
第26回 学長 学務部長
第27回 学長 学務部長
第28回 学長 学務部長
第29回 学長 学務部長
第30回 学長 学務部長
第31回 学長 学務部長
第32回 学長 学務部長
第33回 学長 学務部長
第34回 学長 学務部長
第35回 学長 学務部長
第36回 学長 学務部長
第37回 学長 学務部長
第38回 学長 学務部長
第39回 学長 学務部長
第40回 学長 学務部長
第41回 学長 学務部長
第42回 学長 学務部長
第43回 学長 学務部長
第44回 学長 学務部長
第45回 学長 学務部長
第46回 学長 学務部長
第47回 学長 学務部長
第48回 学長 学務部長
第49回 学長 学務部長
第50回 学長 学務部長
第51回 学長 学務部長
第52回 学長 学務部長
第53回 学長 学務部長
第54回 学長 学務部長
第55回 学長 学務部長
第56回 学長 学務部長
第57回 学長 学務部長
第58回 学長 学務部長
第59回 学長 学務部長
第60回 学長 学務部長
第61回 学長 学務部長
第62回 学長 学務部長
第63回 学長 学務部長

三重大 男女共同参画推進学生委員会の活動

三重大学生及び日中韓の大学生の男女共同参画に関する意識調査の実施

三重大男女共同参画推進学生委員会は、三重大学生の男女共同参画に関する意識・知見・要望を把握し、授業の改善や男女共同参画推進活動に役立てるため、2015年6月の第1回の意識調査以来、毎年、教養教育「男女共同参画基礎」の受講生を対象に意識調査を行っています。2018年6月15日に83名の受講生を対象に第10回男女共同参画に関する意識調査を行いました。

また、日中韓の大学生の男女共同参画に関する意識の共通点や相違点を図る目的で、2018年6月に三重大学生(210名)、教養教育「男女共同参画基礎」の受講生(83名)、韓国世宗大学学生(129名)、梨花女子大学学生(155名)、中国天津師範大学学生(38名)と阿南大学学生(10名)を対象(合計642名)に同様な意識調査を行いました。

日中韓の大学生の男女共同参画に関する意識調査は、これまで何回もない調査報告として大きな関心を集め、三重大の内外関係者による活発な討論や意見交換が図られました。詳細な内容は、「男女共同参画アンケート調査」に掲載されているので、参照願います。

特に、2015年9月に国連サミットで採択された、2016年から2030年までに全世界の行政、企業、教育機関、NPOなど、運営手段の協働によって達成することが求められる、「国連持続可能な開発目標(SDGs)」の17の目標のうち、目標5のジェンダー平等の実現に向けた優れた取組として、高く評価されました。

IATSS FORUMとの協働事業

2019年6月19日に、北条サテライト「SDGs 研究会」とIATSS FORUM(国際交通安全学会)との共催で、東南アジア10カ国(カンボジア、インド、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム)からの研修生20名と三重大男女共同参画推進学生委員会と学生委員の20名が、国連持続可能な開発目標(SDGs)を通じた、男女共同参画活動による持続可能なアジア創生に向けて、竹富県立大学による基調講演(SDGs for Asian Strategic Development by Prof. Hye-Sook PARK, Mie University)及びワールドカフェ形式の分科会を開催しました。

鈴木知事より表彰を受ける駒田学長

第4回三重大学生の男女共同参画に関する意識調査

(アンケート実施日: 2018年6月)

調査対象(男女共同参画基礎受講生83名)

人文		教育		生物資源		工学		医学		全体		計
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
16	18	0	2	0	0	24	23	0	0	40	43	83

質問項目 自由記述の問1、問2、問4は取り扱わない

- 所属学部、学年、性別
- 男女共同参画の現状について、あなたは下記のそれぞれの場面で男女の地位は平等になっていると思いますか。
 - 大学で
 - 家庭で
 - 政府で
 - 社会通念や習慣など
- 匿名質問等において女子学生の比率が低い、高校時代の進路選択の際に、性別などの偏見に陥った進路選択が妨げられていることがその原因の一つとされています。あなたは、進路選択の際に性別による偏見を感じたことがありますか。
- 「男性が外で働き女性が家庭を守る」という考え方にどう思いますか。
- あなたが関心のあることは何ですか。(複数回答可)
- あなたが将来就きたい職種は何ですか。
- あなたの理想とする年収は
- あなたは専業主婦をどう思いますか。
- 将来、仕事と家庭を両立するために必要だと思うこと。(複数回答可)
- 「男女共同参画基礎」を履修したきっかけは何ですか。
- 男女共同参画推進学生委員会について、あなた自身が男女共同参画を推進する活動に参加することに何かがありますか。
- 学生委員会として参加したい(取組んでもらいたい)活動があれば自由に記述してください
- 情報を提供するために、あなたが最も手配しに入れられる情報源をお答えください。(複数回答可)
- 三重大の男女共同参画を推進するために、授業の改善、実施してほしいイベント、あなたが気づいた課題等について自由に記述してください。

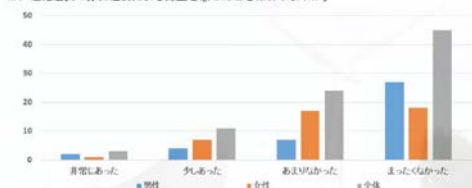
アンケート抜粋

2. 男女共同参画の現状について、あなたは下記のそれぞれの場面で男女の地位は平等になっていると感じますか。

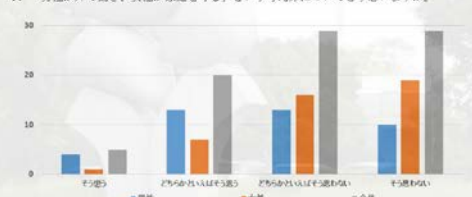
学部	性別が重要	どちらかといえば男性が優位	男女平等	どちらかといえば女性が優位	女性優位	不明(無回答)
大学で	16	18	0	2	0	24
家庭で	0	2	0	0	24	23
政府で	0	0	24	23	0	0
社会通念や習慣など	0	0	24	23	0	0

第4回三重大学生の男女共同参画に関する意識調査

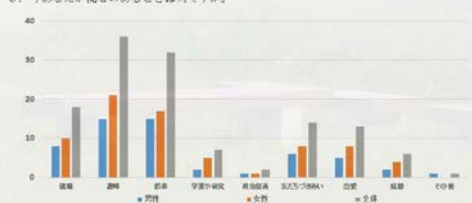
3. 選好選択の際に性別による偏重を感じたことはありますか。



4. 「男性が外で働き、女性が家庭を守る」という考え方についてどう思いますか。

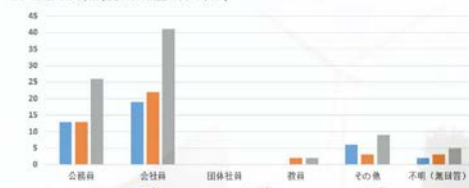


5. 今あなたが関心のあることは何ですか。

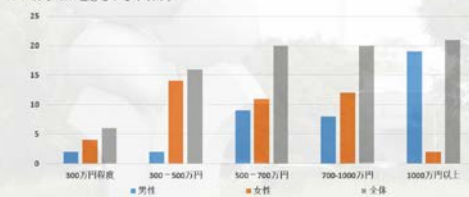


第4回三重大学生の男女共同参画に関する意識調査

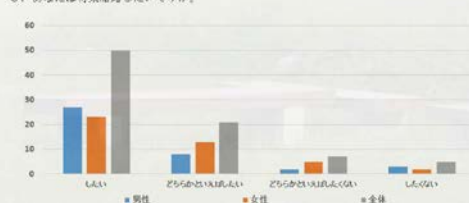
6. あなたが将来欲しい年収は何ですか。



7. あなたが理想とする年収は。



8. あなたは将来結婚したいですか。

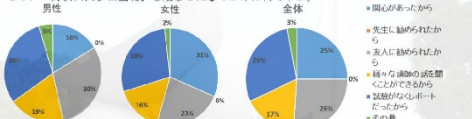


第4回三重大学生の男女共同参画に関する意識調査

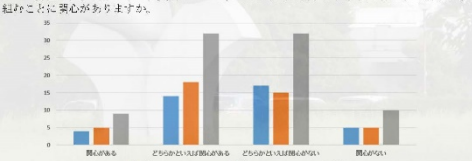
9. 学業、仕事と家庭を両立させるために必要だと思うこと。



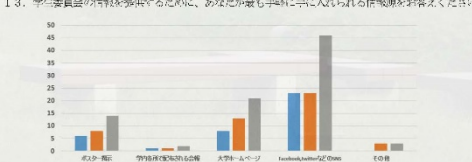
10. 男女共同参画意識を向上させるには何ですか。



11. 男女共同参画推進委員会について、あなたが男女共同参画を推進する活動に取組むことに関心がありますか。



13. 学生委員会の活動を強化するために、あなたが最も希望に思われる情報源をお答えください。



日中韓の男女共同参画に関する意識調査の比較

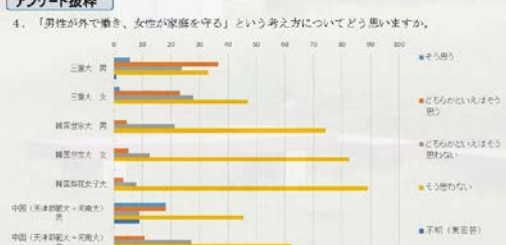
調査対象 ※中国の2大学は共に調査人数が少ないため合わせて中国として比較

三重大	男	女	計
	155	89	244
韓国 釜山大学	男	女	計
	89	40	129
韓国 梨花女子大学	男	女	計
	155	100	255
中国(天津師範大学+河南大学)	男	女	計
	211(211)	87(87)	298(298)

質問項目 (下線を引いた項目を今回の比較対象とする)

1. 所属学部、学年、性別
2. 男女共同参画の現状について、あなたは下記のそれぞれの場面で男女の地位は平等になっていると思いますか。
1) 大学で 2) 家庭で 3) 政治で 4) 社会通念や習慣などで
3. 理系学部等において女子学生の比率が低く、高校時代の進路選択の際に、性別などの偏重に合った進路選択が付けられていることがその原因の一つとされています。あなたは、進路選択の際に性別による偏重を感じたことがありますか。
4. 「男性が外で働き、女性が家庭を守る」という考え方についてどう思いますか。
5. 今あなたが関心のあることは何ですか。(複数回答可)
6. あなたが将来欲しい年収は何ですか。
7. あなたの理想とする年収は。
8. あなたは将来結婚したいですか。
9. 学業、仕事と家庭を両立させるために必要だと思うこと。(複数回答可)
10. 情報を提供するために、あなたが最も手軽に手に入れられる情報源をお答えください。(複数回答可)
11. 男女共同参画を推進するために、実施してほしいイベント、あなたが気づいた課題等について自由に記述してください。

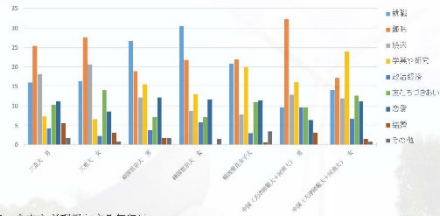
アンケート抜粋



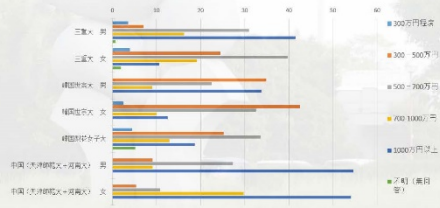


日中韓の男女共同参画に関する意識調査の比較

5. あなたが関心のあることは何ですか。(複数回答)



7. あなたが理想とする年収に。



10. 男女共同参画の啓蒙を促進するために、あなたが最も手軽に手に入れられる情報源をお答えください。(複数回答)



Ⅱ 男女共同参画推進専門委員会の活動

令和元年度三重大学男女共同参画推進専門委員会

回	日	事項
1	5月 27日 (月)	○ 平成31年度活動計画について ○ 育児等との両立のための研究補助者雇用経費助成について ○ フレンデみえとの連携について ○ トモショックProjectについて ○ 第4回学生の男女共同参画に関する意識調査について ○ 平成31年度教養教育「男女共同参画基礎」授業について ○ 「三重大学男女共同参画推進専門委員会報告書2018」について ○ 2019年度三重大学男女共同参画推進学生委員会委員名簿について
2	8月 1日 (月)	○ 令和元年度後期育児等との両立のための研究補助者雇用経費助成の募集について ○ トモショック宣言及びワークショップの実施について ○ 国立大学協会男女共同参画小委員会について ○ 全国ダイバーシティネットワーク組織東海・北陸ブロックセミナー及び会議について ○ 第5回三重大学学生の男女共同参画に関する意識調査について ○ 2019年度男女共同参画推進フォーラムについて ○ フレンデみえ主催「女性のためのエンパワーメント・スクール」について
3	9月 30日 (月)	○ 令和2年度教養教育授業計画について ○ 育児等との両立のための研究補助者雇用経費助成について ○ 「三重大学男女共同参画推進専門委員会報告書2019」について ○ オープンキャンパスの実施について ○ トモショック宣言及び「トモショックワークショップ」の実施について ○ 2019年度男女共同参画推進フォーラムについて ○ 男女共同参画推進に係る講演会の実施について
4	2月 10日 (月)	○ 令和2年度育児等との両立のための研究補助者雇用経費助成について ○ 「三重大学男女共同参画推進専門委員会報告書2019」について ○ 令和2年度教養教育授業計画について ○ 三重大学「働き方改革講演会」について ○ 津市男女共同参画フォーラム「わあむ津」について

他



(1) 第5回三重大学生の男女共同参画に関する意識調査

2019年（令和元年度）6月21日に、朴 恵淑人文学部・地域イノベーション学研究科教授と男女共同参画推進学生委員会とで、教養教育「男女共同参画基礎」受講生の51名を対象に、第5回三重大学生の男女共同参画に関する意識調査を行いました。この調査は、三重大学生の男女共同参画に対する意識・知識・要望を確かめ、「男女共同参画基礎」講義の改善及び男女共同参画推進活動に活かすことを目的に2015年度（平成27年度）から実施しています。なお、第1回（2015年度）から第5回（令和元年度）までのトレンドの比較のため、特に、設問9 将来、仕事と家庭を両立するために必要だと思うこと。（複数回答可）、設問10「男女共同参画基礎」を履修したきっかけは何ですか。設問11 男女共同参画推進学生委員会について、あなた自身が男女共同参画を推進する活動に取り組むことに関心がありますか。設問13 情報を提供するために、あなたが最も手軽に手に入れられる情報源を教えてください。（複数回答可）について比較分析を行いました。

<2019年度第5回男女共同参画意識調査>

(2) 2019年度日中韓の大学生の男女共同参画に関する意識調査

2019年（令和元年度）6月に、朴 恵淑人文学部・地域イノベーション学研究科教授と男女共同参画推進学生委員会とで、日中韓の大学生の555名（三重大学235名（教養教育「男女共同参画基礎」受講生51名及び「三重学：四日市学の確立」受講生184名）、韓国世宗大学126名、中国南京審計大学194名）を対象に、日中韓の大学生の男女共同参画に関する意識調査を行いました。特に、設問2 男女共同参画の現状について、あなたは下記のそれぞれの場面で男女の地位は平等になっていると思いますか。1) 大学で 2) 家庭で 3) 政治で 4) 社会通念や習慣などで、設問3 理系学部等において女子学生の比率が低く、高校時代の進路選択の際に、性別などの適正に沿った進路選択が妨げられていることがその原因の一つとされています。あなたは、進路選択の際に性別による障壁を感じたことがありましたか。設問4 「男性が外で働き女性が家庭を守る」という考え方についてどう思いますか。設問5 今あなたが関心のあることはなんですか。（複数回答可） 設問6 あなたが将来就きたい職種はなんですか。設問7 あなたの理想とする年収は。 設問8 あなたは将来結婚したいですか。 設問9 将来、仕事と家庭を両立するために必要だと思うこと。（複数回答可） 設問10 情報を提供するために、あなたが最も手軽に手に入れられる情報源を教えてください。（複数回答可）について比較分析を行いました。

<2019年度日中韓の大学生の男女共同参画に関する意識調査>

第4回 三重大学生の男女共同参画に関する意識調査

(2018年6月15日 : 男女共同参画基礎受講生 83名)

質問項目

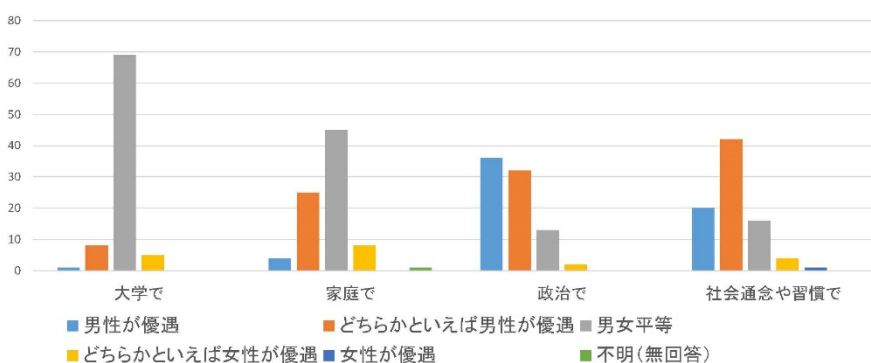
※ 自由記述の問12、問14は取り扱わない

1. 所属学部、学年、性別
2. 男女共同参画の現状について、あなたは下記のそれぞれの場面で男女の地位は平等になっていると思いますか。
1) 大学で 2) 家庭で 3) 政治で 4) 社会通念や習慣などで
3. 理系学部等において女子学生の比率が低く、高校時代の進路選択の際に、性別などの適正に沿った進路選択が妨げられていることがその原因の一つとされています。あなたは、進路選択の際に性別による障壁を感じたことがありましたか。
4. 「男性が外で働き女性が家庭を守る」という考え方についてどう思いますか。
5. 今あなたが関心のあることは何ですか。(複数回答可)
6. あなたが将来就きたい職種は何ですか。
7. あなたの理想とする年収は
8. あなたは将来結婚したいですか。
9. 将来、仕事と家庭を両立するために必要だと思うこと。(複数回答可)
10. 「男女共同参画基礎」を履修したきっかけは何ですか。
11. 男女共同参画推進学生委員会について、あなた自身が男女共同参画を推進する活動に取り組むことに関心がありますか。
12. 学生委員会として取り組みたい(取組んでもらいたい)活動があれば自由に記述してください
13. 情報を提供するために、あなたが最も手軽に手に入れられる情報源をお答えください。(複数回答可)
14. 三重大大学の男女共同参画を推進するために、授業の感想、実施してほしいイベント、あなたが気づいた課題等について自由に記述してください。

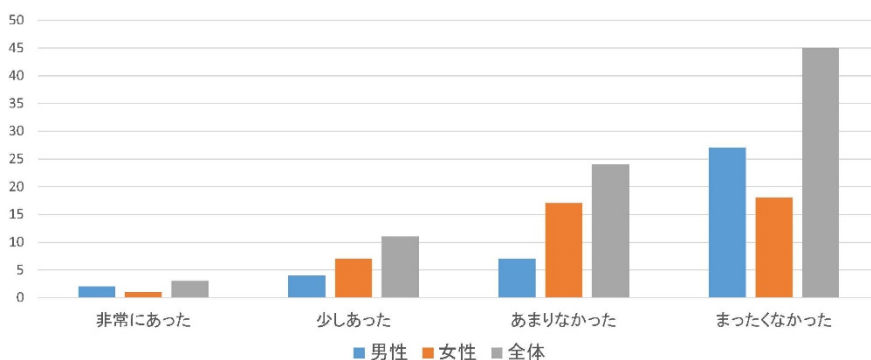
調査対象

人文		教育		生物資源		工学		医学		全体		計
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
16	18	0	2	0	0	24	23	0	0	40	43	83

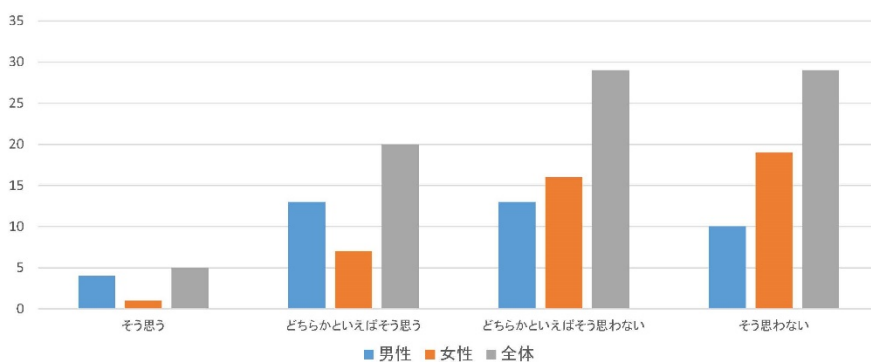
2. 男女共同参画の現状について、あなたは下記のそれぞれの場面で男女の地位は平等になっていると感じますか。



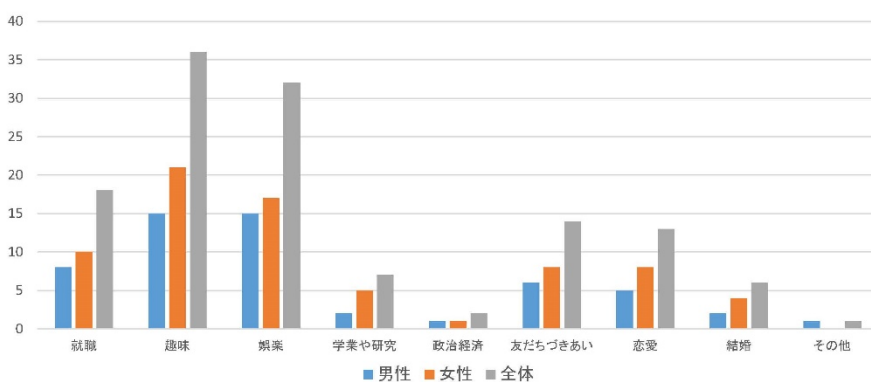
3. 進路選択の際に性別による障壁を感じたことはありますか。



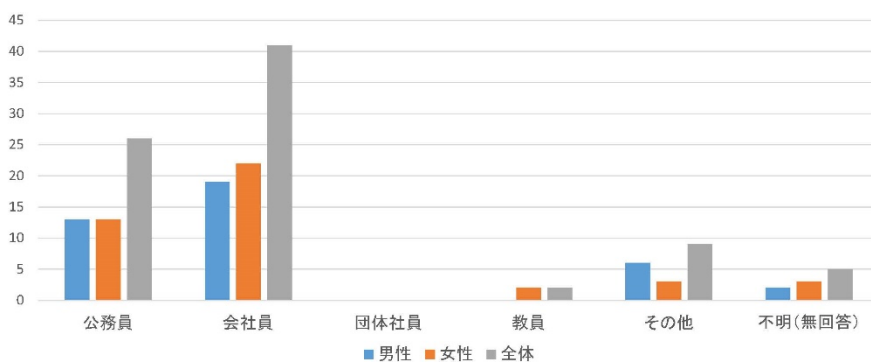
4. 「男性が外で働き、女性が家庭を守る」という考え方についてどう思いますか。



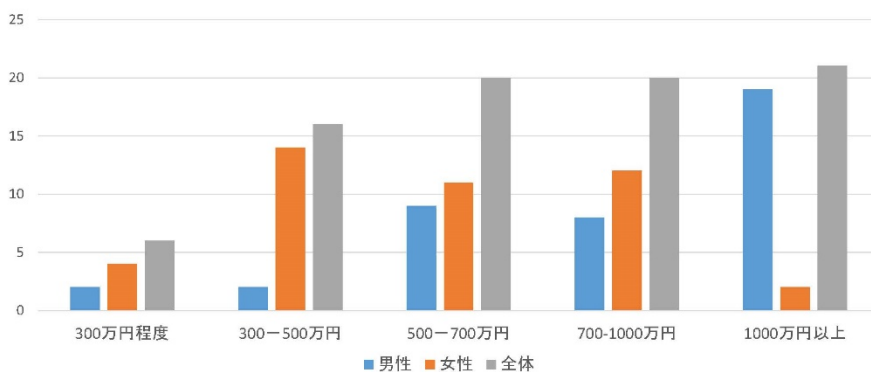
5. 今あなたが関心のあることは何ですか。



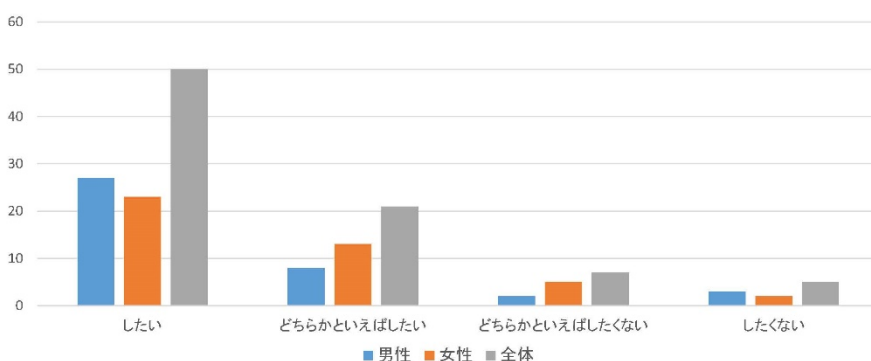
6. あなたが将来就きたい職種は何ですか。



7. あなたが理想とする年収は。

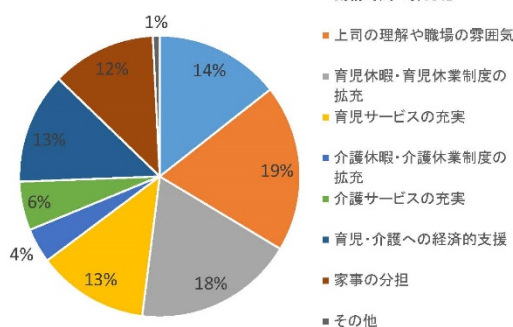


8. あなたは将来結婚したいですか。

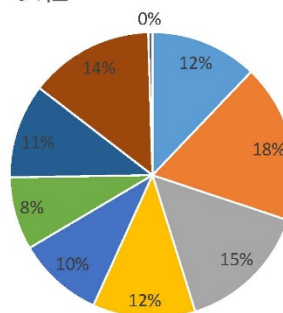


9. 将来、仕事と家庭を両立させるために必要だと思うこと。

男性

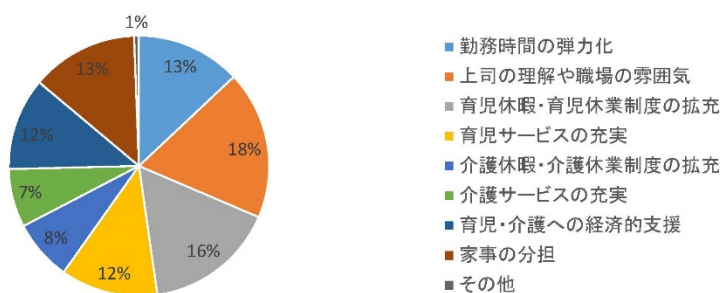


女性

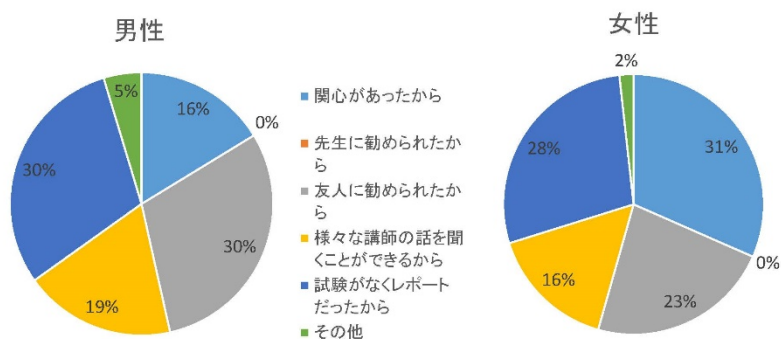


9. 将来、仕事と家庭を両立させるために必要だと思うこと。 (全体)

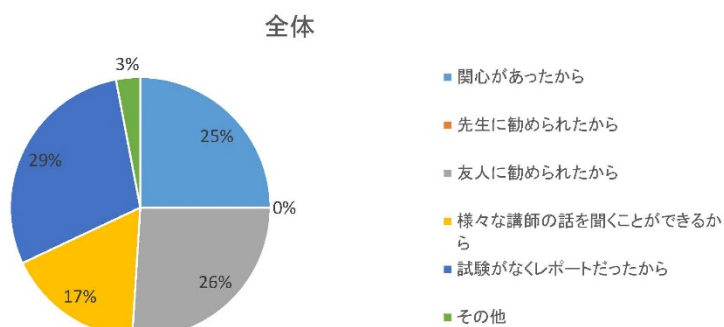
全体



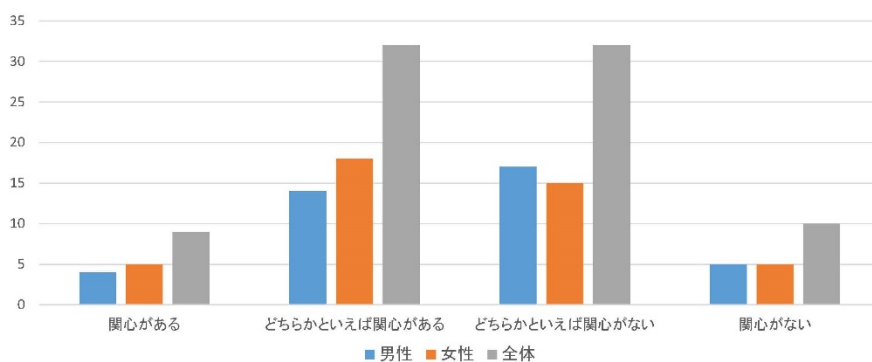
10. 「男女共同参画基礎」を履修したきっかけは何ですか。



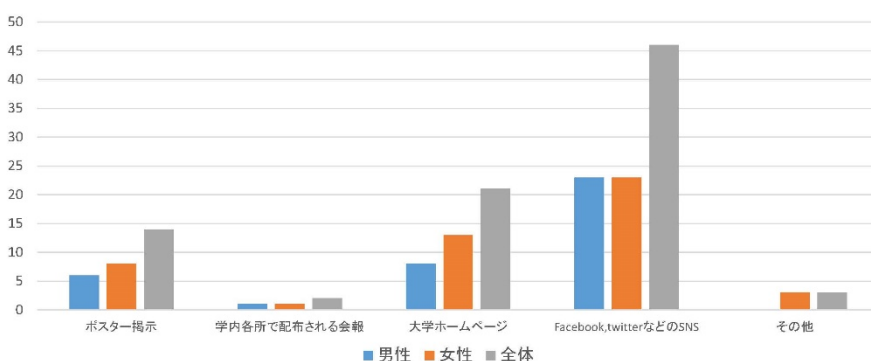
10. 「男女共同参画基礎」を履修したきっかけは何ですか。



11. 男女共同参画推進学生委員会について、あなた自身が男女共同参画を推進する活動に取り組むことに関心がありますか。



13. 学生委員会の情報を提供するために、あなたが最も手軽に手に入れられる情報源をお答えください。



日中韓の男女共同参画に関する意識調査の比較

(2018年:542名)

調査対象

※中国の2大学は共に調査人数が少ないため合わせて中国として比較

・三重大学

男	女	計
102	108	210

・韓国 世宗大学

男	女	計
89	40	129

・韓国 梨花女子大学

女	計
155	155

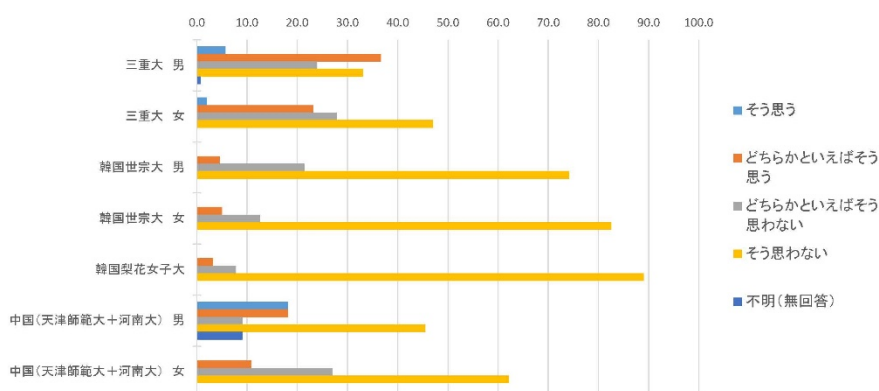
・中国(天津師範大学+河南大学)

男	女	計
11(10+1)	37(28+9)	48(38+10)

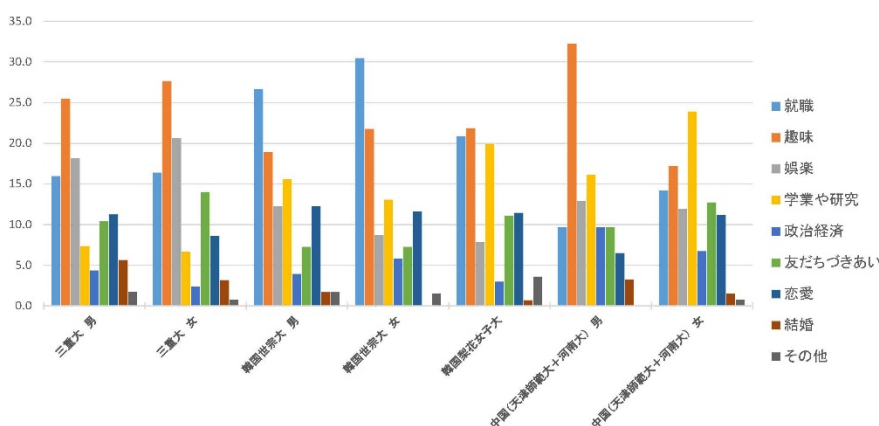
質問項目（下線を引いた項目を今回の比較対象とする）

1. 所属学部、学年、性別
2. 男女共同参画の現状について、あなたは下記のそれぞれの場面で男女の地位は平等になっていると思いますか。
1) 大学で 2) 家庭で 3) 政治で 4) 社会通念や習慣などで
3. 理系学部等において女子学生の比率が低く、高校時代の進路選択の際に、性別などの適正に沿った進路選択が妨げられていることがその原因の一つとされています。あなたは、進路選択の際に性別による障壁を感じたことがありますか。
4. 「男性が外で働き女性が家庭を守る」という考え方についてどう思いますか。
5. 今あなたが関心のあることは何ですか。（複数回答可）
6. あなたが将来就きたい職種は何ですか。
7. あなたの理想とする年収は
8. あなたは将来結婚したいですか。
9. 将来、仕事と家庭を両立するために必要だと思うこと。（複数回答可）
10. 情報を提供するために、あなたが最も手軽に手に入れられる情報源をお答えください。（複数回答可）
11. 男女共同参画を推進するために、実施してほしいイベント、あなたが気づいた課題等について自由に記述してください。

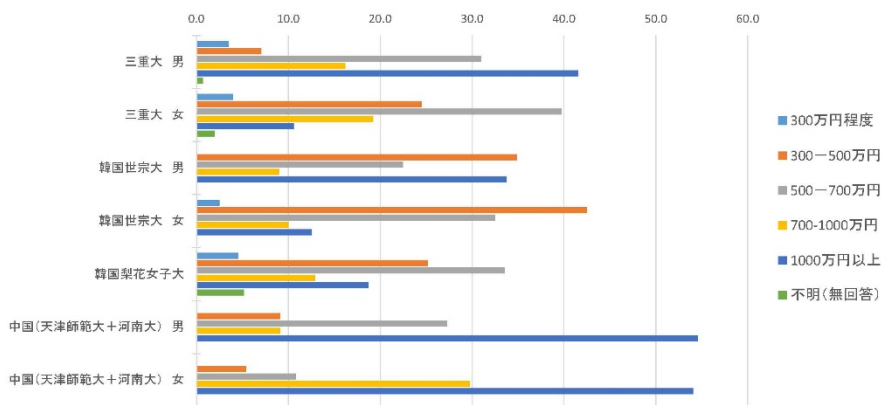
4. 「男性が外で働き、女性が家庭を守る」という考え方についてどう思いますか。



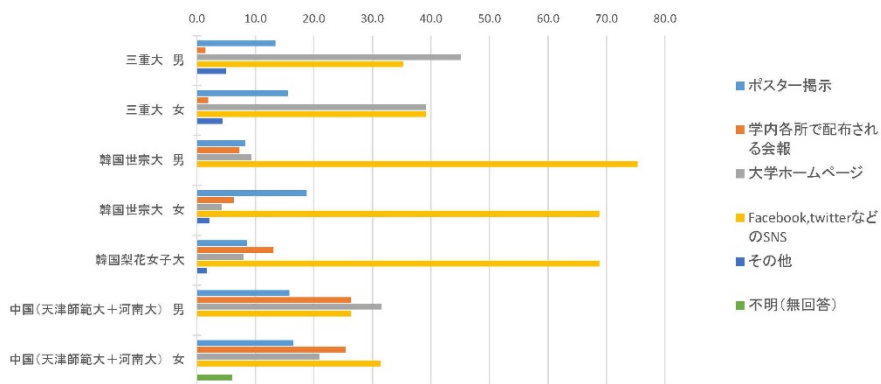
5. 今あなたが関心のあることは何ですか。（複数回答）



7. あなたが理想とする年収は。



10. 男女共同参画の情報を提供するために、あなたが最も手軽に手に入れられる情報源をお答えください。(複数回答)



IV 教養教育授業

教養教育において「男女共同参画基礎」授業を開講

2019(令和元)年度前期、教養教育120番教室において現代社会理解特殊講義「男女共同参画基礎」を開講しました。この授業は、三重大学男女共同参画推進専門委員会委員が講師となり、地方公共団体等から非常勤講師やゲストスピーカーを迎えて、オムニバス形式で実施しました。今年度の授業には、63名の学生が履修登録し、国、三重県、三重大学の各部局における男女共同参画推進の取組みや課題、さらに、LGBT及び少子化対策等についても幅広く学びました。

また、第1回目の授業の冒頭では、本学男女共同参画推進学生委員会委員長の南部陽香さん及び5名の副委員長等から、学生委員会の紹介等を行い、6月には受講生を対象に第5回目の男女共同参画意識調査を実施しました。



第1回 朴 恵淑委員



第1回 朴 恵淑委員、男女共同参画推進学生委員



第2回 非常勤講師
小川真里子名誉教授



第3回 ゲストスピーカー
藤枝和佳子氏



第4回 ゲストスピーカー
川北睦子氏



第5回 非常勤講師
小川真里子名誉教授



第6回 常 清秀委員



第7回 森川孝太郎委員



第8回 宮田千春委員



第9回 小林 正委員



第10回 江藤みちる委員



第10回 ゲストスピーカー
一般社団法人ELLY



第11回 森 多佳美委員



第12回 宇野貴浩委員



第13回 林原玲洋委員



第14回 非常勤講師
石垣弘美氏



第15回 ゲストスピーカー
神元有紀氏



授業風景



授業風景



授業風景

現代社会理解特殊講義「男女共同参画基礎」 シラバス

科目の基本情報

開講年度	2019(平成 31) 年度
開講区分	教養教育 教養統合科目 国際理解・現代社会理解
受講対象学生	学部(学士課程): 1 年次, 2 年次, 3 年次, 4 年次, 5 年次, 6 年次
選択・必修	選択
授業科目名	現代社会理解特殊講義 げんだいしゃかいりかいとくしゅこうぎ Lecture Course in Understanding Modern Society
授業テーマ	男女共同参画基礎
単位数	2 単位
分野	人文 (平成 26 年度以前に入学した学生対象)
開放科目	非開放科目
市民開放授業	市民開放授業
開講学期	前期
開講時間	金曜日 5, 6 時限
開講場所	教養教育 120 番教室

担当 教員	○尾西 康充(理事・副学長), 朴 恵淑(人文学部), 森川孝太郎(教育学部), 江藤 みちる(医学系研究科), 宮田 千春(医学系研究科), 森 多佳美(医学部附属病院), 小林 正(工学研究科), 宇野 貴浩(工学研究科), 常清秀(生物資源学研究科), 林原 玲洋(教養教育院), 小川眞里子(非常勤講師), 石垣 弘美(非常勤講師), 藤枝 和佳子(ゲストスピーカー), 川北 睦子(ゲストスピーカー)
	○ ONISHI,Yasumitsu
	尾西 康充 onishi@mie-u.ac.jp 男女共同参画推進室 danjo@ab.mie-u.ac.jp
TA の 情報	

学習の目的と方法

授業の概要	男女共同参画について多方面から考え、活動できるよう、社会のさまざまな分野における男女共同参画推進活動等について学ぶ。 本学教員とともに自治体職員等の非常勤講師及びゲストスピーカーを交えて指導する。
学習の目的	男女共同参画社会を実現するには何をすべきかを考えさせ、意識向上を図る。
学習の到達 目標	男女共同参画社会について理解する。 社会の様々な分野における男女共同参画に関する知識やノウハウを修得する。 男女共同参画社会の実現に向けて主体的に活動できるようになる。
ディプロマ・ ポリシー	○ 学科・コース等の教育目標 ○ 全学の教育目標 感じる力 ○ 感性 ○ 共感 - 主体性 考える力 ○ 幅広い教養 - 専門知識・技術 - 論理的・批判的思考力 コミュニケーション力 ○ 表現力(発表・討論・対話) - リーダーシップ・フォロワーシップ - 実践外国語力

授業の方法	講義
授業の特徴	キャリア教育の要素を加えた授業 その他能動的要素を加えた授業(ミニッツペーパー、シャトルカードなど)
教科書	講義のはじめにテキストや参考書について提示する。
参考書	講義のはじめにテキストや参考書について提示する。
成績評価方法と基準	2/3 以上の出席を条件に、授業(20%)及びレポート2件(80%)で評価する。
オフィスアワー	本科目の取りまとめ役 尾西康充への連絡については、月曜日～金曜日の午前9時から午後5時まで可。それぞれの講師については、三重大学男女共同参画推進室へ、月曜日～金曜日の午前9時～午後4時まで可。
受講要件	特にありません。
予め履修が望ましい科目	
発展科目	
授業改善への工夫	担当教員が男女共同参画に関するセミナー等に参加するなどして、最新の情報を把握して改善する。また、担当教員による学生の意見収集及び三重大学男女共同参画推進学生委員会が実施する学生アンケート調査により、学生の意見を反映して改善する。
その他	

授業計画

キーワード	男女共同参画、女性活躍支援、次世代育成支援、ワーク・ライフ・バランス
Key Word(s)	Gender Equality
学習内容	第 1 回 尾西 康充 「オリエンテーション」 朴 恵淑 「日本及び三重大大学の男女共同参画の現状と課題」 第 2 回 小川眞里子 「男女共同参画推進入門」 第 3 回 藤枝和佳子 「三重県男女共同参画基本計画」 第 4 回 川北 睦子 「男女と起業とパーソナルブランディング」 第 5 回 小川眞里子 「なぜ今理系分野の男女共同参画か」 第 6 回 常 清秀 「アジア（中国）の男女共同参画の現状と課題」 第 7 回 森川孝太朗 「職業の選択と男女共同参画－西洋音楽史の事例から－」 第 8 回 宮田 千春 「看護における男女共同参画」 第 9 回 小林 正 「会社で働くということ」 第 10 回 江藤みちる 「男女共同参画とワーク・ライフ・バランス」 第 11 回 森 多佳美 「大学病院における男女共同参画の推進」 第 12 回 宇野 貴浩 「工学研究科における男女共同参画の推進」 第 13 回 林原 玲洋 「〈反 - 男女共同参画〉のレトリック」 第 14 回 石垣 弘美 「三重県の男女共同参画の現状と課題」 第 15 回 尾西 康充・神元 有紀 「ライフプランを考える」
事前・事後学修の内容	男女共同参画に関する新聞記事を読み、自分の考えを深める。専用のノートを作って、レポート作成のための準備を行う。

* 成績評価方法及び基準について

- 2/3 以上の出席を条件に評価する。ただし、出席確認の不正（代理出席確認、出席確認後の退出など）があった場合又は授業中に私語等の迷惑行為をした場合、単位は一切認めない。
- (1) 出席（20％）

(2) レポート2件（80％）

①授業の中から、自分の気に入ったテーマを2つ選んで、レポートを2件作成する。

②字数は各3,000字以上（参考文献の文字数を含む）。

横書き、A4の用紙を使用。

各レポートには参考文献を2本以上使用すること（参考文献とは、そのテーマにちなんだ書籍や論文のこと。参考文献の出版年月、著者名、タイトルを明記する）。テーマ・学籍番号・氏名を忘れずに書く。

③提出期限：8月2日（金）

④提出場所：教養教育事務室前レポート提出BOXへ。（BOX番号は7月の授業で連絡する。）
- 27 -

1. 教育学部男女共同参画推進委員会

2020(令和2)年1月22日(水)教育学部大会議室において、学生・教職員を対象としてLGBT講演会を開催しました。講師には、一般社団法人ELLYより鈴木朔さんをお迎えし、「LGBTと教育現場～先生たちにできること～」と題してお話しいただきました。参加者は全員で19名(学生5名、教職員14名)でした。

LGBTの方たちは、11人から13人に1人の割合でいるといわれています。これは、AB型や左利きの割合に似ています。このことから、LGBTは性的マイノリティーではないことが分かります。しかし、無知や無関心や偏見などから、LGBTの方たちが自身のことについて相談しにくい環境があり、また、一番興味を抱くような時期にLGBTを学ぶ機会がないため、孤立することが多々あります。講演は、スライドによる様々な方の写真とその人の性のあり方の紹介からはじまりました。

このことから、人はみかけでは性別や恋愛対象の性が分からないことを参加者で共有しました。また、講演では、学校内での授業時における各教科の取り組み方等の提言もありました。人がよりよく生きるための社会を考え、模索することは、教員を目指す学生にとって大切なことです。そして、教職員は、悩んでいる人たちが安心して相談できるような存在でありたいものです。普段はなかなか聞くことのできない生の声に、参加した学生や教職員は熱心に聞き入り、非常に有意義な会となりました。



2. 工学部男女共同参画推進委員会

(1) 女子学生数増の取り組み

(1-1) 工学部ホームページ内の受験生向け「女子学生でも大丈夫か知りたい」

<http://www.eng.mie-u.ac.jp/futurestudents/isitok/>で随時情報を発信しています。

(1-2) 女子学生による進路相談コーナー及び理系女性支援の紹介

2019(令和元)年8月10日、工学部のオープンキャンパスにおいて、高校の女子生徒と保護者対象に「女子学生による進路相談コーナー」を設置しました。リケジョを目指す多くの女子生徒や保護者が相談に訪れ、工学部及び大学院工学研究科の女子学生が自らの経験を基に、熱心に対応していました。

また、パネル展示により「理系女性支援の紹介」を行いました。

(1-3) 高校などで行われる進学説明会や出前授業において、女子学生に同行してもらい、自らの経験などを話してもらいました。



女子学生による進路相談



三重大大学の男女共同参画推進活動紹介

(2) 在学女子学生サポートの取り組み

工学部ホームページ内の在学生向け「女子学生さんのための相談コーナー」

<http://www.eng.mie-u.ac.jp/students-o/>

で女子学生さんが三重大で勉学・研究をするにあたって、改善してほしい点」などのご相談・ご要望を受け付けるとともに、年に1回アンケートを行っています。アンケートの結果と回答は、同コーナーで公開しています。

アンケートの結果をふまえ、

- ・トイレに温水洗浄便座を設置(第1, 2合同棟)
 - ・OG談話会の開催
- などを行いました。

3. 生物資源学部男女共同参画推進室

●増養殖研究所一般公開&オープンキャンパスにおいて「女子学生による研究紹介」
生物資源学研究科男女共同参画推進室の恒例行事として、毎年、①国立研究開発法人水産研究・教育機構増養殖研究所が夏休み期間中に開催されている一般公開への参加、②研究科・学部オープンキャンパスでのポスター発表を行っている。
ポスター発表者は、学部・研究科内で募集し、各学科1名程度で選出する。選出された学生が各自で自分の研究内容とその成果をポスターに分かりやすく取りまとめて、イベント当日に参加した方々に説明する。
本年度は、2018年度と同様、台風の影響で7月27日(土)に予定していた増養殖研究所南勢庁舎でのイベントが中止となったため、発表予定者(3名の大学院生)が8月9日(金)の研究科・学部キャンパスでの発表予定者(4名の女子学生)と一緒に「個別研究紹介コーナー」で研究成果を披露した。7名の学部生・大学院生は、当日約120名の高校生および保護者に自分の研究を紹介した。

令和元年 オープンキャンパス
《学部生・大学院生による個別研究紹介コーナー》



令和元年 オープンキャンパスポスター発表者リスト

氏名	性別	学年	学籍番号	所属	指導教員
勝又 与允 (カツマタ ヨシチカ)	男子	M1	519M323	生物圏生命科学専攻・海洋生物資源学科・海洋生物学講座・海洋個体群動態学教育研究分野	金岩
宮 映日 (ミヤ アキヒ)	男子	M2	518m330	生物圏生命科学専攻・海洋生物資源学科・海洋生物学講座・海洋生態学教育研究分野	木村(妙)
水谷 雪乃 (ミズタニ ユキノ)	女子	D3	517D301	生物圏生命科学専攻・生物圏生命化学科・海洋生命分子化学講座・海洋微生物学教育研究分野	田中(礼)
加藤佳穂 (カトウ カホ)	女子	4年生	516118	資源循環学科農業生物学講座・草地・飼料生産学研究分野	近藤(誠)
村井 穂 (ムライ ミノリ)	女子	M2	518m217	共生環境学科・環境情報システム工学・応用環境情報学教育研究	福島・滝沢
立藤 皓美 (タチフジヒロミ)	女子	4年生	516551	生物圏生命化学科・海洋生命分子化学講座・海洋食糧化学教育研究分野	柴田
鈴木梨乃 (スズキ リノ)	女子	4年生	516547	生物圏生命化学科・生命機能化学講座・分子細胞生物学教育研究分野	奥村

1. 三重県との連携

(1) フレンテまつり

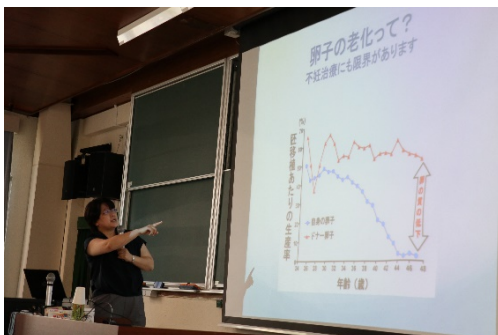
2019(令和元)年6月2日(日)、三重県男女共同参画センター フレンテみえで開催された「フレンテまつり」に参加しました。

この催しは、フレンテみえの登録団体が一堂に集まって、活動発表や情報交換等を行うもので、三重大学は協力機関として参加し、本学の男女共同参画推進活動を紹介するパネル展示を行いました。展示ブースでは、来訪者に対して説明を行い、本学の取り組みを理解していただくとともに、三重地域の男女共同参画をさらに推進するために情報交換を行いました。



(2) 特別講義

「ライフプランについて考えてみよう」三重県ライフプラン教育アドバイザー派遣事業により、2019(令和元)年7月26日、教養教育「男女共同参画基礎」の受講生を対象に、神元有紀 産婦人科医師を講師に「ライフプランを考える」をテーマに特別講義を行いました。



3. 津市との連携

11月9日 津市芸濃総合文化センターで開催された令和元年度津市男女共同参画フォーラム「わあむ津」に参加しました。本学は、訪れた市民の皆様には本学の取組みを理解していただくため、男女共同参画推進活動を紹介するパネル展示及び関連資料の配布を行いました。また、参加団体の方々と意見交換を行い、相互理解を深めました。



VII 国立大学協会の取組み

国立大学協会では、平成23年（2011年）2月に「国立大学における男女共同参画推進について－アクションプラン－」を策定し、「少なくとも2015年までに国立大学の女性教員比率17%以上」との達成目標を設定し、毎年、の追跡調査の実施により、その達成状況を検証してきました。平成27年（2015年）までの達成状況も踏まえ、平成28年（2016年）以降についても引き続き、国立大学における男女共同参画を推進するため、平成28年1月に「国立大学における男女共同参画推進について－アクションプラン（2016年度～2020年度）－」を取りまとめました。（アクションプラン（2016年度～2020年度）URL）
http://www.janu.jp/gender/files/danjyo_actionplan2016-2020.pdf

三重大学の男女共同参画進捗状況調査結果（2019(令和元)年5月1日現在）

表1.1 職名別・性別 教員数

（アクションプラン P3～P5. (1), (2)①, (3)①, (3)② 関係）

単位：人

	男	女	計	女性比率 % *
学長	1	0	1	0.0
理事 **	4	0	4	0.0
副学長 ***	9	2	11	18.2
教授	206	38	244	15.6
准教授	166	32	198	16.2
講師（常勤）	73	7	80	8.8
助教	196	73	269	27.1
小計	655	152	807	18.8
助手	0	0	0	
計	655	152	807	18.8

* 学校基本調査と同じ数値を記入し、その際、学校基本調査にない、「理事」の取り扱いに注意してください。

** 理事が副学長を兼ねている場合は、理事の欄にのみ記入し、副学長の欄には記入しないでください。

非常勤理事は除いてください。

*** 理事又は副学長が教授を兼ねている場合は、理事あるいは副学長の欄にのみ記入し、教授の欄には記入しないでください。

表1.2 大学の意思決定機関等における性別構成

（アクションプラン P4. (2)② 関係）

単位：人

	男	女	計	女性比率 %
学長補佐等 *	6	0	6	0.0
経営協議会（学内委員）、 教育研究評議会委員**	32	3	35	8.6
部局長等	19	0	19	0.0
監事 **	1	0	1	0.0
小計	58	3	61	4.9
非常勤理事	1	0	1	0.0
経営協議会等（学外委員）	7	2	9	22.2
非常勤監事	1	0	1	0.0
小計	9	2	11	18.2
計	67	5	72	6.9

延べ人数とし、重複する場合はどちらにも含めてください。

* 副理事等、学長や理事を補佐する役職も含めてください。理事及び副学長は除いてください。

** 学外委員、非常勤理事等は除いてください。経営協議会、教育研究評議会委員には学長・理事も含めてください。

表1.3 非常勤講師の構成

単位:人

	男	女	計	女性 比率 %
専任教員の本務を持つ者	152	35	187	18.7
専任教員以外の本務を持つ者 *	221	41	262	15.6
本務を持たない者(60歳以上) **	63	23	86	26.7
本務を持たない者(40歳以上～60歳未満) **	19	34	53	64.2
本務を持たない者(40歳未満) **	7	3	10	30.0
計	462	136	598	22.7

「客員教授」「客員講師」など、雇用形態等がいわゆる非常勤講師と同様である場合は含めてください。学内非常勤講師は除いてください。

* 企業、国公立研究機関、予備校その他の機関における常勤の勤務者数を記入してください。

** 勤務先が全て非常勤の場合はここに入れてください。

表1.4 部局別・性別教員数

単位:人

学部・学科		教員数(本務者)													
		教 授		准教授		講師(常勤)		助 教		助 手		小 計			
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	女性 比率 %
人文学部(群)	学部	22	12	17	5	3	0	0	3	0	0	42	20	62	32.3
医学部	学部	2	1	0	0	2	1	16	3	0	0	20	5	25	20.0
教育学部	学部	35	8	13	7	3	1	0	0	0	0	51	16	67	23.9
	学部														
	学部														
	学部														
	学部														
	学部														
	学部														
	学部														
	学部														
	学部														
	学部														
教養部(一般教育)		9	1	1	2	3	0	0	1	0	0	13	4	17	23.5
大学院		126	13	106	14	17	1	67	29	0	0	316	57	373	15.3
附属病院		6	2	19	0	40	1	100	32	0	0	165	35	200	17.5
附置研究所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他		6	1	10	4	5	3	13	5	0	0	34	13	47	27.7
計*		206	38	166	32	73	7	196	73	0	0	641	150	791	19.0

平成31年度学校基本調査 様式第7号「学生教職員等状況票 4 教員数(本務者) Bカード」に記載した人数を記入してください。

ただし、学長・理事・副学長が教授を兼ねている場合は、教授の欄に記入せず、集計から除外してください。

* 職名毎の合計が表1.1及び1.6で記入した数と同数になるよう記入してください。

表1.5 専攻分野別 学部・大学院の卒業(修了)者数

単位:人

専攻分野 *	学士課程				修士課程				博士課程				専門職学位課程			
	男	女	計	女性 比率 %	男	女	計	女性 比率 %	男	女	計	女性 比率 %	男	女	計	女性 比率 %
人文科学	26	88	114	77.2	3	4	7	57.1	0	0	0		0	0	0	
社会科学	102	86	188	45.7	1	2	3	66.7	0	0	0		0	0	0	
理学	0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0	
工学	356	62	418	14.8	197	19	216	8.8	5	2	7	28.6	0	0	0	
農学(獣医学、水産学を含む)	146	101	247	40.9	53	24	77	31.2	9	1	10	10.0	0	0	0	
保健(医歯薬学を含む)***	80	116	196	59.2	8	13	21	61.9	24	11	35	31.4	0	0	0	
家政	0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0	
教育	88	139	227	61.2	8	12	20	60.0	0	0	0		7	8	15	53.3
芸術	0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0	
その他	0	0	0		9	1	10	10.0	0	1	1	100.0	0	0	0	
合計(自動計算)	798	592	1390	42.6	279	75	354	21.2	38	15	53	28.3	7	8	15	53.3

2018年度における卒業(修了)者数について、期間満了による退学者(いわゆる満期退学)も含めて記入してください。

* 専攻分野の分類は、学校基本調査に従ってください。ただし、本調査では、商船分野はその他に含めて記入してください。

** 法科大学院の修了者は表右下のピンク色の欄に、その他の社会科学分野の専門職大学院の修了者については、表の社会科学の欄にご記入ください。

***「保健」分野について、下記に人数の内訳をご記入ください。なお、平成30年度学校基本調査「学科系統分類表」に基づき分類願います。

「保健」中分類別	学士課程				修士課程				博士課程				専門職学士課程			
	男	女	計	女性 比率 %	男	女	計	女性 比率 %	男	女	計	女性 比率 %	男	女	計	女性 比率 %
医学	76	43	119	36.1	7	3	10	30.0	24	10	34	29.4	0	0	0	
歯学	0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0	
薬学	0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0	
看護学	4	73	77	94.8	1	10	11	90.9	0	1	1	100.0	0	0	0	
保健その他	0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0	
保健(医歯薬学を含む)合計	80	116	196	59.2	8	13	21	61.9	24	11	35	31.4	0	0	0	

表1.6 専攻分野別 教員数(本務者)

単位:人

専攻分野*		教授						准教授						講師(常勤)					
		男			女			男			女			男			女		
		うち 任期 付き	うち契約更 新可能性有		うち 任期 付き	うち契約更 新可能性有		うち 任期 付き	うち契約更 新可能性有		うち 任期 付き	うち契約更 新可能性有		うち 任期 付き	うち契約更 新可能性有		うち 任期 付き	うち契約更 新可能性有	
人文科学	40歳以上	13	0	0	8	0	0	9	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
	40歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0
社会科学	40歳以上	9	0	0	4	0	0	7	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	40歳未満	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
理学	40歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	40歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
工学	40歳以上	39	0	0	0	0	0	37	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
	40歳未満	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
農学(獣医学、 水産学を含む)	40歳以上	41	0	0	2	0	0	30	0	0	3	0	0	0	0	0	1	0	0
	40歳未満	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
保健(医歯薬学 を含む)	40歳以上	44	44	36	14	14	13	41	41	40	9	9	9	53	53	48	2	2	1
	40歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3	3	3	0	0	0
家政	40歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	40歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
教育	40歳以上	38	0	0	8	0	0	11	0	0	6	1	1	0	0	0	0	0	0
	40歳未満	0	0	0	0	0	0	4	0	0	2	0	0	3	3	1	2	1	1
芸術	40歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	40歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	40歳以上	22	6	6	2	0	0	19	5	4	5	2	2	6	5	3	2	1	0
	40歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2	2	1	0	0	0
合計(自動 計算)	40歳以上	206	50	42	38	14	13	154	47	44	27	12	12	61	58	51	5	3	1
	40歳未満	0	0	0	0	0	0	12	0	0	5	2	2	12	8	5	2	1	1

専攻分野*		助教						小計						計			女性比率%		
		男			女			男			女			うち 任期 付き			うち 任期 付き		
		うち 任期 付き	うち契約更 新可能性有		うち 任期 付き	うち契約更 新可能性有		うち 任期 付き	うち契約更 新可能性有		うち 任期 付き	うち契約更 新可能性有		うち 任期 付き	うち契約更 新可能性有		うち 任期 付き	うち契約更 新可能性有	
人文科学	40歳以上	0	0	0	1	1	0	22	0	0	12	1	0	34	1	0	35.3	100.0	
	40歳未満	0	0	0	2	2	0	3	0	0	2	2	0	5	2	0	40.0	100.0	
社会科学	40歳以上	0	0	0	0	0	0	16	1	0	5	0	0	21	1	0	23.8	0.0	
	40歳未満	0	0	0	1	1	1	1	0	0	2	1	1	3	1	1	66.7	100.0	100
理学	40歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	40歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
工学	40歳以上	4	0	0	1	0	0	82	0	0	1	0	0	83	0	0	1.2		
	40歳未満	16	2	0	1	0	0	19	2	0	1	0	0	20	2	0	5.0	0.0	
農学(獣医学、 水産学を含む)	40歳以上	6	1	1	0	0	0	77	1	1	6	0	0	83	1	1	7.2	0.0	0
	40歳未満	4	4	4	2	1	1	9	4	4	2	1	1	11	5	5	18.2	20.0	20
保健(医歯薬学 を含む)	40歳以上	78	78	66	30	29	24	216	216	190	55	54	47	271	270	237	20.3	20.0	19.83122363
	40歳未満	76	76	56	27	27	21	79	79	59	28	28	22	107	107	81	26.2	26.2	27.16049383
家政	40歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	40歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
教育	40歳以上	0	0	0	0	0	0	49	0	0	14	1	1	63	1	1	22.2	100.0	100
	40歳未満	0	0	0	0	0	0	7	3	1	4	1	1	11	4	2	36.4	25.0	50
芸術	40歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	40歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
その他	40歳以上	7	4	3	3	3	2	54	20	16	12	6	4	66	26	20	18.2	23.1	20
	40歳未満	5	4	4	5	5	2	7	6	5	6	6	3	13	12	8	46.2	50.0	37.5
合計(自動 計算)	40歳以上	95	83	70	35	33	26	516	238	207	105	62	52	621	300	259	16.9	20.7	20.07722008
	40歳未満	101	86	64	38	36	25	125	94	69	45	39	28	170	133	97	26.5	29.3	28.86597938

「保健」中分類別		教 授				准教授				講師(常勤)				助 教			
		男		女		男		女		男		女		男		女	
		うち 任期 付き		うち 任期 付き		うち 任期 付き		うち 任期 付き		うち 任期 付き		うち 任期 付き		うち 任期 付き		うち 任期 付き	
医学	40歳以上	42	42	4	4	33	33	2	2	63	63	3	3	74	74	20	20
	40歳未満	0	0	0	0	1	1	0	0	2	2	0	0	73	73	21	21
歯学	40歳以上	1	1	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	2	2	1	1
	40歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
薬学	40歳以上	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	40歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
看護学	40歳以上	3	3	9	9	0	0	10	10	0	0	0	0	0	0	4	4
	40歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4
保健その他	40歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	40歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
保健(医歯薬学を含む)合計	40歳以上	47	47	13	13	34	34	12	12	65	65	3	3	76	76	25	25
	40歳未満	0	0	0	0	1	1	0	0	2	2	0	0	73	73	26	26

「保健」中分類別		小 計								助 手			
		男		女		計		女性比率 %		男		女	
		うち 任期 付き		うち 任期 付き		うち 任期 付き		うち 任期 付き		うち 任期 付き		うち 任期 付き	
医学	40歳以上	212	212	29	29	241	241	12.0	12.0	0	0	0	0
	40歳未満	76	76	21	21	97	97	21.6	21.6	0	0	0	0
歯学	40歳以上	5	5	1	1	6	6	16.7	16.7	0	0	0	0
	40歳未満	0	0	1	1	1	1	100.0	100.0	0	0	0	0
薬学	40歳以上	2	2	0	0	2	2	0.0	0.0	0	0	0	0
	40歳未満	0	0	0	0	0	0			0	0	0	0
看護学	40歳以上	3	3	23	23	26	26	88.5	88.5	0	0	0	0
	40歳未満	0	0	4	4	4	4	100.0	100.0	0	0	0	0
保健その他	40歳以上	0	0	0	0	0	0			0	0	0	0
	40歳未満	0	0	0	0	0	0			0	0	0	0
保健(医歯薬学を含む)合計	40歳以上	222	222	53	53	275	275	19.3	19.3	0	0	0	0
	40歳未満	76	76	26	26	102	102	25.5	25.5	0	0	0	0

専攻分野 *		助 手					
		男			女		
		うち 任期 付き	うち契約更新可能性有		うち 任期 付き	うち契約更新可能性有	
人文科学	40歳以上	0	0	0	0	0	0
	40歳未満	0	0	0	0	0	0
社会科学	40歳以上	0	0	0	0	0	0
	40歳未満	0	0	0	0	0	0
理学	40歳以上	0	0	0	0	0	0
	40歳未満	0	0	0	0	0	0
工学	40歳以上	0	0	0	0	0	0
	40歳未満	0	0	0	0	0	0
農学(獣医学、水産学を含む)	40歳以上	0	0	0	0	0	0
	40歳未満	0	0	0	0	0	0
保健(医歯薬学を含む)	40歳以上	0	0	0	0	0	0
	40歳未満	0	0	0	0	0	0
家政	40歳以上	0	0	0	0	0	0
	40歳未満	0	0	0	0	0	0
教育	40歳以上	0	0	0	0	0	0
	40歳未満	0	0	0	0	0	0
芸術	40歳以上	0	0	0	0	0	0
	40歳未満	0	0	0	0	0	0
その他	40歳以上	0	0	0	0	0	0
	40歳未満	0	0	0	0	0	0
合計(自動計算)	40歳以上	0	0	0	0	0	0
	40歳未満	0	0	0	0	0	0

* 専攻分野の分類は、学校基本調査に従ってください。ただし、本調査では、商船分野はその他に含めて記入してください。

担当する学生の分類に従って、教員の合計を記入してください。

** 職名毎の合計が表1.1及び1.4で記入した数と同数になるよう記入してください。

*** 「保健」分野について、下記に人数の内訳をご記入ください。なお、平成31年度学校基本調査「学科系統分類表」に基づき分類願います。

「保健」中分類別		教 授						准教授						講師(常勤)					
		男			女			男			女			男			女		
		うち 任期 付き	うち契約更 新可能性有		うち 任期 付き	うち契約更 新可能性有		うち 任期 付き	うち契約更 新可能性有		うち 任期 付き	うち契約更 新可能性有		うち 任期 付き	うち契約更 新可能性有		うち 任期 付き	うち契約更 新可能性有	
医学	40歳以上	41	41	33	5	5	4	40	40	39	2	2	2	51	51	46	2	2	1
	40歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	0	0	0
歯学	40歳以上	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	0	0	0
	40歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
薬学	40歳以上	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	40歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
看護学	40歳以上	2	2	2	9	9	9	0	0	0	7	7	7	0	0	0	0	0	0
	40歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0
保健その他	40歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	40歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
保健(医歯薬学を含む)合計	40歳以上	44	44	36	14	14	13	41	41	40	9	9	9	53	53	48	2	2	1
	40歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3	3	3	0	0	0

「保健」中分類別		助 教						小 計						計						女性比率 %	
		男			女			男			女			計			計			うち 任期 付き	
		うち 任期 付き	うち契約更 新可能性有		うち 任期 付き	うち契約更 新可能性有		うち 任期 付き	うち契約更 新可能性有		うち 任期 付き	うち契約更 新可能性有		うち 任期 付き	うち契約更 新可能性有		うち 任期 付き	うち契約更 新可能性有		うち 任期 付き	うち契約更 新可能性有
医学	40歳以上	76	76	64	24	23	18	208	208	182	33	32	25	241	240	207	13.7	13.3		12.07729469	
	40歳未満	74	74	54	23	23	17	76	76	56	23	23	17	99	99	73	23.2	23.2		23.28767123	
歯学	40歳以上	2	2	2	1	1	1	5	5	5	1	1	1	6	6	6	16.7	16.7		16.86666667	
	40歳未満	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	50.0	50.0		50.0	50
薬学	40歳以上	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	1	1	1	0.0	0.0		0.0	0
	40歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
看護学	40歳以上	0	0	0	5	5	5	2	2	2	21	21	21	23	23	23	91.3	91.3		91.30434783	
	40歳未満	1	1	1	3	3	3	2	2	2	4	4	4	6	6	6	66.7	66.7		66.66666667	
保健その他	40歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
	40歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
保健(医歯薬学を含む)合計	40歳以上	78	78	66	30	29	24	216	216		55	54		271	270		20.3	20.0			
	40歳未満	76	76	56	27	27	21	79	79		28	28		107	107		26.2	26.2			

「保健」中分類別		助 手					
		男			女		
		うち 任期 付き	うち契約更 新可能性有		うち 任期 付き	うち契約更 新可能性有	
医学	40歳以上	0	0	0	0	0	0
	40歳未満	0	0	0	0	0	0
歯学	40歳以上	0	0	0	0	0	0
	40歳未満	0	0	0	0	0	0
薬学	40歳以上	0	0	0	0	0	0
	40歳未満	0	0	0	0	0	0
看護学	40歳以上	0	0	0	0	0	0
	40歳未満	0	0	0	0	0	0
保健その他	40歳以上	0	0	0	0	0	0
	40歳未満	0	0	0	0	0	0
保健(医歯薬学を含む)合計	40歳以上	0	0	0	0	0	0
	40歳未満	0	0	0	0	0	0

表1.7 常勤教員の採用・昇任などの異動

1.7-1 採用・転入

単位:人

異動後の職名	教 授		准教授		講師(常勤)		助 教		小 計			助 手		合計
専攻分野*	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	小計	男	女	
人文科学	0	0	0	0	2	0	0	1	2	1	3	0	0	3
社会科学	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1
理学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
工学	1	0	1	0	0	0	4	0	6	0	6	0	0	6
農学(獣医学、水産学を含む)	1	0	1	0	0	0	1	0	3	0	3	0	0	3
保健(医歯薬学を含む)**	1	0	0	0	3	0	40	8	44	8	52	0	0	52
家政	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
教育	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	1
芸術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	3	1	0	0	3	1	4	0	0	4
合計(自動計算)	3	0	3	0	8	2	45	9	59	11	70	0	0	70

2018年度中に採用・転入した教員数を記入してください

他機関からの昇任・転任を含めて記入してください。

* 専攻分野の分類は、学校基本調査に従ってください。ただし、本調査では、商船分野はその他に含めて記入してください。

担当する学生の分類に従って、教員の合計を記入してください。

**「保健」分野について、下記に人数の内訳をご記入ください。なお、平成30年度学校基本調査「学科系統分類表」に基づき分類願います。

異動後の職名	教 授		准教授		講師(常勤)		助 教		小 計			助 手		合計
「保健」中分類別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	小計	男	女	
医学	1	0	0	0	3	0	40	6	44	6	50	0	0	50
歯学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
薬学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
看護学	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2	0	0	2
保健その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
保健(医歯薬学を含む)合計	1	0	0	0	3	0	40	8	44	8	52	0	0	52

1.7-2 本務教員からの学内昇任**

単位:人

異動後の職名	教 授		准教授		講師(常勤)		助 教		計		
専攻分野*	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
人文科学	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
社会科学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
理学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
工学	4	0	1	0	0	0	0	0	5	0	5
農学(獣医学、水産学を含む)	2	1	3	0	0	0	0	0	5	1	6
保健(医歯薬学を含む)***	1	0	10	0	7	0	0	0	18	0	18
家政	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
教育	1	1	1	1	0	0	0	0	2	2	4
芸術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	1	0	0	1	1	0	0	0	2	1	3
合計(自動計算)	10	2	15	2	8	0	0	0	33	4	37

2018年度中に本務教員から学内昇任した教員数を記入してください

* 専攻分野の分類は、学校基本調査に従ってください。ただし、本調査では、商船分野はその他に含めて記入してください。

担当する学生の分類に従って、教員の合計を記入してください。

** 学内者であっても、技官や非常勤教員等、本務教員以外からの異動の場合は採用に入れてください。

***「保健」分野について、下記に人数の内訳をご記入ください。なお、平成30年度学校基本調査「学科系統分類表」に基づき分類願います。

異動後の職名	教 授		准教授		講師(常勤)		助 教		計		
「保健」中分類別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
医学	1	0	10	0	7	0	0	0	18	0	18
歯学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
薬学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
看護学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
保健その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
保健(医歯薬学を含む)合計	1	0	10	0	7	0	0	0	18	0	18

表1.8 常勤職員の職系別・職名別職員数

(アクションプラン P5.(4) 関係)

単位:人

職 名	事務系 *		技術技能系 *		医療系 *		教務系 *		その他 *		計			
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	女性比率 %
課長相当職以上	27	6	4	0	3	3	0	1	0	0	34	10	44	22.7
課長補佐、専門員等	19	7	3	1	3	0	2	0	0	0	27	8	35	22.9
係長、専門職員等	45	22	3	1	13	38	23	3	0	0	84	64	148	43.2
主任等	17	27	2	1	2	41	2	1	0	0	23	70	93	75.3
その他一般職員	79	81	3	1	97	553	18	11	0	0	197	646	843	76.6
計	187	143	15	4	118	635	45	16	0	0	365	798	1163	68.6

* 職系の分類は、学校基本調査に従ってください。

** 技術長、技術部主任、看護師長、看護主任等の役職者は、対応する職名(課長、係長、主任等)の欄に、その外は「その他の一般職員」の欄に記入してください。対応する職名の判断は各大学組織の実情に合わせて決めてください。

(参考例)

	事務系		技術技能系	医療系		
課長相当職以上	一般職	級以上		看護部長、副看護部長	技師長	
課長補佐、専門員等	〃	級以上	技術専門官		副技師長	副薬剤部長
係長、専門職員等	〃	級以上	技術専門職員、主任技術職員	看護師長	主任技師	薬剤主任
主任等	〃	級以上		副看護師長		
その他一般職員				看護師、看護助手	技師	薬剤師

表1.9 常勤職員の採用

単位:人

職 名 *	事務系 *		技術技能系 *		医療系 *		教務系 *		その他 *		計			
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	女性比率 %
課長相当職以上	5	1	1	0	0	0	0	0	0	0	6	1	7	14.3
課長補佐、専門員等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
係長、専門職員等	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	50.0
主任等	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0.0
その他一般職員	7	13	0	0	14	86	2	1	0	0	23	100	123	81.3
計	15	15	1	0	14	86	2	1	0	0	32	102	134	76.1

2018年度中に採用した職員数を記入してください

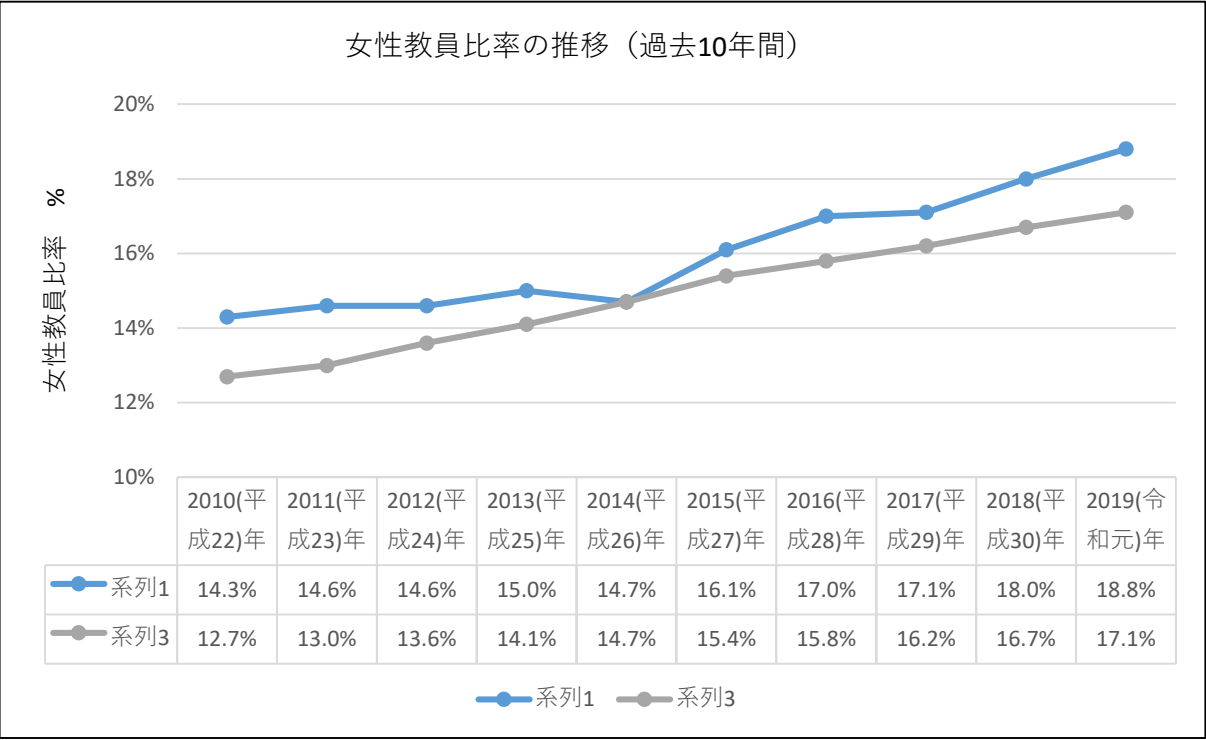
* 職系の分類、職名の対応については、表1.8と同様に記入してください。

表1.10 採用・昇進時における積極的是正措置(ポジティブ・アクション)の実施

実施状況	常勤教員の採用	常勤教員の昇任	常勤職員の採用
実施した	●	○	○
実施しなかった	○	●	●
回答取り消し	○	○	○

表1.7-1、1.7-2、1.9で回答いただいた2018年度中に採用・昇任した教職員について、積極的是正措置の実施状況を回答してください。
なお、「実施した」とご回答いただいた大学には、後日、実施状況の詳細等をお尋ねすることがありますので、その際はよろしくお願いいたします。

三重大の女性教員比率の推移				
女性教員比率(各年5月1日現在)				
調査回数	調査年	三重大	三重大	国立大学
		女性教員数/全教員数		
第1回	2001(平成13)年	—	—	7.60%
第2回	2003(平成15)年	—	—	8.00%
第3回	2005(平成17)年	94人/749人	12.60%	9.30%
第4回	2007(平成19)年	96人/739人	13.00%	11.40%
第5回	2008(平成20)年	99人/741人	13.40%	11.80%
第6回	2009(平成21)年	106人/748人	14.20%	12.10%
第7回	2010(平成22)年	110人/769人	14.30%	12.70%
第8回	2011(平成23)年	112人/765人	14.60%	13.00%
第9回	2012(平成24)年	111人/760人	14.60%	13.60%
第10回	2013(平成25)年	118人/787人	15.00%	14.10%
第11回	2014(平成26)年	116人/791人	14.70%	14.70%
第12回	2015(平成27)年	129人/802人	16.10%	15.40%
第13回	2016(平成28)年	137人/805人	17.00%	15.80%
第14回	2017(平成29)年	137人/802人	17.10%	16.20%
第15回	2018(平成30)年	147人/816人	18.00%	16.70%
第16回	2019(令和元)年	152人/807人	18.80%	17.10%



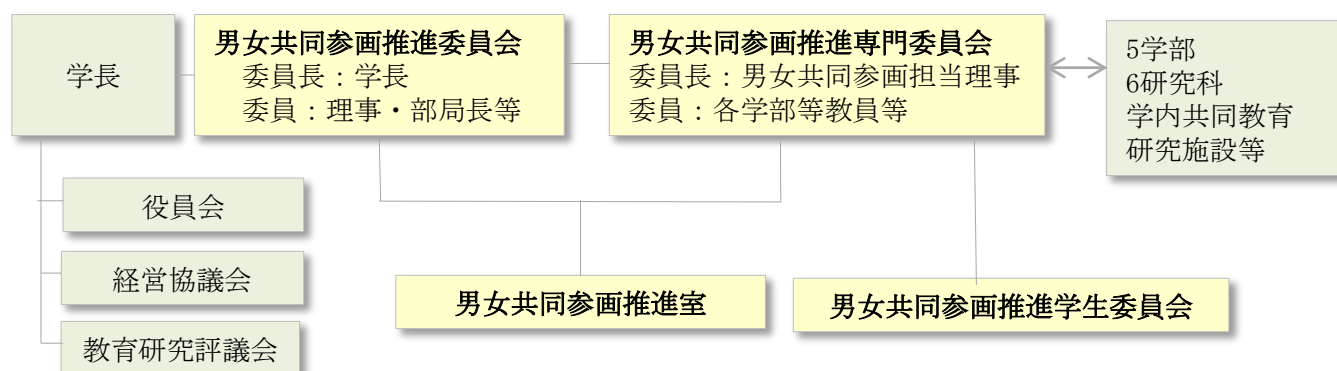
1. 三重大学男女共同参画推進組織

平成24年6月に男女共同参画推進体制の改組を行い、学長を委員長に理事及び部局長等で構成する男女共同参画推進委員会の下に、担当理事を委員長に各部局の教職員で構成する専門委員会が中心となって、男女共同参画推進室と共に女性支援、ワーク・ライフ・バランスおよび次世代育成支援等に積極的に取り組んでいます。

また、2014年（平成26）年4月に三重大学学生が主体的に男女共同参画活動に取り組むため、専門委員会の指導の下に学生委員会を設置しました。

三重大学男女共同参画推進体制

2014（平成26）年4月1日～



2. 三重大学男女共同参画推進委員会規程

（平成20年3月27日規程第630号）

改正平成21年3月30日規程 平成22年3月31日規程

平成23年3月24日規程 平成24年6月28日規程

平成26年3月27日規程 平成30年3月30日規程

令和元年5月23日規程630号

（設置）

第1条 三重大学に、三重大学男女共同参画推進委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 男女共同参画の推進に係る基本理念に関する事項
- (2) 男女共同参画の推進方策の企画、立案及び実施に関する事項
- (3) 男女共同参画の現状分析、評価及びそれらの公表に関する事項
- (4) 男女共同参画の推進のために必要な啓発活動に関する事項
- (5) その他男女共同参画に関する事項

（組織）

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 各理事
- (3) 各学部又は研究科の長
- (4) 教養教育院長
- (5) 医学部附属病院長
- (6) 事務局長

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員が、その職務を代行する。

(会議)

第5条 委員会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立する。

2 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を出席させ、意見又は説明を聴くことができる。

(専門委員会等)

第7条 委員会は、三重大学男女共同参画推進専門委員会(以下「専門委員会」という。)を置く。

2 前項の専門委員会に関し必要な事項は、別に定める。

3 委員会は、三重大学男女共同参画推進室(以下「男女共同参画推進室」という。)を置く。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、男女共同参画推進室において処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成21年3月30日規程)

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則(平成22年3月31日規程)

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則(平成23年3月24日規程)

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則(平成24年6月28日規程)

この規程は、平成24年6月28日から施行する。

附 則(平成26年3月27日規程)

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則(平成30年3月30日規程)

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則(令和元年5月23日規程630号)

この規程は、令和元年5月23日から施行する。

3. 三重大学男女共同参画推進専門委員会細則

(平成20年3月27日細則第631号)

改正 平成21年3月30日細則 平成22年3月31日細則

平成23年3月24日細則 平成24年6月28日細則

平成26年3月27日細則 平成30年3月30日細則

(趣旨)

第1条 この細則は、三重大学男女共同参画推進委員会規程(以下「規程」という。)第7条第2項の規定に基づき、三重大学男女共同参画推進専門委員会(以下「専門委員会」という。)に関し必要な事項を定める。

(業務)

第2条 専門委員会は、次の各号に掲げる事項を処理する。

- (1) 男女共同参画の推進に係る具体的方策の計画及びその実施に関する事項
- (2) 男女共同参画に関する調査及び分析に関する事項
- (3) その他三重大学男女共同参画推進委員会から付託を受けた専門的事項

(組織)

第3条 専門委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 理事のうち学長が指名した者 1名
- (2) 各学部又は研究科から推薦された大学教員 各1名
- (3) 教養教育院から推薦された大学教員 1名
- (4) 医学部附属病院から推薦された大学教員及び医療職員 各1名
- (5) 企画総務部長
- (6) その他本学の職員で専門委員会が必要と認めた者

2 前項第2号から第4号まで及び第6号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、同項第2号から第4号までの委員に欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 専門委員会に委員長を置き、前条第1項第1号の委員とする。

2 委員長は、専門委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員が、その職務を代行する。

(会議)

第5条 専門委員会は、委員の過半数の出席をもって成立する。

2 専門委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 専門委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を出席させ、意見又は説明を聴くことができる。

(庶務)

第7条 専門委員会の庶務は、三重大学男女共同参画推進室において処理する。

(雑則)

第8条 この細則に定めるもののほか、専門委員会の運営に関し必要な事項は、専門委員会が別に定める。

附 則

この細則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成21年3月30日細則)

この細則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則(平成22年3月31日細則)

この細則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則(平成23年3月24日細則)

この細則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則(平成24年6月28日細則)

この細則は、平成24年6月28日から施行する。

附 則(平成26年3月27日細則)

この細則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則(平成30年3月30日細則)

この細則は、平成30年4月1日から施行する。

4. 三重大学男女共同参画推進学生委員会内規

平成26年3月3日内規

(趣旨)

第1条 この内規は、三重大学男女共同参画推進専門委員会（以下「専門委員会」という。）細則 第8条により、専門委員会に三重大学男女共同参画推進学生委員会（以下「学生委員会」という。）を置く。

(活動)

第2条 この学生委員会は専門委員会の指導のもと、男女共同参画推進の理念を実現するため、本学学生が男女共同参画推進事業を活動することを目的とする。

(組織)

第3条 学生委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 各研究科の学生 若干名
- (2) 各学部の学生 若干名
- (3) その他専門委員会が必要と認めた者

2 委員の任期は、1年とし、再任を妨げない。

(委員長)

第4条 学生委員会に委員長を置き、専門委員会が指名する。

2 委員長は、学生委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員が、その職務を代行する。

(会議)

第5条 学生委員会は、委員の過半数の出席をもって成立する。

2 学生委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 学生委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を出席させ、意見又は説明を聴くことができる。

(庶務)

第7条 学生委員会の庶務は、三重大学男女共同参画推進室において処理する。

(雑則)

第8条 この内規に定めるもののほか、学生委員会の運営に関し必要な事項は、学生委員会が別に定める。

附 則

この内規は、平成26年4月1日から施行する。



南部男女共同参画推進学生委員会委員長(左端)ほか
男女共同参画推進学生委員

5. 三重大学男女共同参画推進室内規

(平成23年3月24日規程第701号)

改正 平成24年6月28日内規

(趣旨)

第1条 この内規は、三重大学男女共同参画推進委員会規程第7条第3項に規定する三重大学男女共同参画推進室(以下「推進室」という。)に関し必要な事項を定める。

(業務)

第2条 推進室は、男女共同参画に関する事務を処理する。

(組織)

第3条 推進室は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 室長
- (2) 副室長
- (3) その他必要な職員

(室長等)

第4条 室長は、推進室の業務を掌理し、学長が指名する。

2 副室長は、室長を補佐し、室長が指名する。

(雑則)

第5条 この内規に定めるもののほか、推進室の運営に関し必要な事項は、室長が別に定める。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則(平成24年6月28日内規)

この内規は、平成24年6月28日から施行する。

6. 2019（令和元）年度三重大学男女共同参画関係委員会等名簿

(1) 三重大学男女共同参画推進委員会名簿

職名	氏名	備考
学長	駒田 美弘	
理事（教育担当）・副学長	山本 俊彦	
理事（研究・社会連携担当）・副学長	緒方 正人	
理事（総務・財務・基金・企画・評価担当）・副学長	尾西 康充	
理事（情報・国際・環境担当）・副学長	梅川 逸人	
事務局長	大高 弘士	
人文学部長	安食 和宏	
教育学部長	鶴原 清志	
医学系研究科長	片山 直之	
工学研究科長	畑中 重光	
生物資源学研究科長	奥村 克純	
地域イノベーション学研究科長	三宅 秀人	
教養教育院長	綾野 誠紀	
医学部附属病院長	伊佐地 秀司	

(2) 三重大大学男女共同参画推進専門委員会名簿

所属等	職名等	氏名	備考
理事	理事（総務・財務・基金・企画・評価担当）・副学長	尾西 康充	第3条第1項第1号
人文学部	教授	朴 恵淑	第3条第1項第2号
教育学部	准教授	森川孝太郎	第3条第1項第2号
医学系研究科	准教授	宮田 千春	第3条第1項第2号
工学研究科	教授	小林 正	第3条第1項第2号
生物資源学研究科	教授	常 清秀	第3条第1項第2号
教養教育院	講師	林原 玲洋	第3条第1項第3号
医学部附属病院	教授	小川 朋子	第3条第1項第4号 (教員)
医学部附属病院	副看護部長	森 多佳美	第3条第1項第4号 (医療職員)
企画総務部	企画総務部長 兼男女共同参画推進室長	園邊 邦輝	第3条第1項第5号
医学系研究科	助教	江藤みちる	第3条第1項第6号
工学研究科	助教	宇野 貴浩	第3条第1項第6号
陪席者			
企画総務部	人事労務課長	井澤 克弘	
企画総務部	人事労務チーム副課長 (人事担当)	世古 和裕	
企画総務部	人事労務チーム副課長 (労務担当)	島田 秀行	
男女共同参画推進室	副室長	中島 英雄	
男女共同参画推進室	室員	中村 賢一	

(3) 三重大大学男女共同参画推進学生委員会名簿

職 名	氏 名	備 考
委員長	南部 陽香	人文学部3年
副委員長	大西 昌子	地域イノベーション学研究科博士前期2年

(4) 三重大大学男女共同参画推進室名簿

職 名	氏 名	備 考
室長（兼務）	園邊 邦輝	企画総務部長
室員（兼務）	井澤 克弘	人事労務課長
室員（兼務）	島田 秀行	人事労務チーム副課長（労務担当）
副室長（専任）	中島 英雄	
室員（専任）	中村 賢一	

表紙のシンボルマークについて



「みえの働き方改革推進企業」登録制度
のシンボルマークです。



「みえの働き方改革推進企業」知事表彰
のシンボルマークです。

三重大学男女共同参画推進専門委員会報告書2019
2020（令和2）年3月発行

発行者 三重大学男女共同参画推進専門委員会

連絡先 三重大学男女共同参画推進室

住所 〒514-8507 津市栗真町屋町1577

電話・FAX 059-231-9830

E-mail danjo@ab.mie-u.ac.jp

